維持 継承 活用 のために

“京都を彩（いろど）る建物や庭園”リスト

京都市
CITY OF KYOTO

2020
令和2年
3月発行

“京都を彩る建物や庭園”制度について

京都市では,市民の皆様が京都の財産として残したいと思う建物や庭園を,公募によりリスト化する“京都を彩る建物や庭園”制度を実施しています。これは,所有者のたゆまぬ努力により,世代を超えて継承されている建物や庭園を,京都の歴史や文化の象徴として市民ぐるみで残そうという気運を高め,維持・継承・活用を図るものです。

市民の皆様から推薦のあった建物や庭園は,審査会を経て,“京都を彩る建物や庭園”に「選定」されます。また,選定されたもののうち,特に価値が高いと認められるものについて「認定」いたします。

※現状変更や所有権移転に対して，何らかの義務を課すものではありません。

“京都を彩る建物や庭園”に選定・認定されると

1.「選定証」・「認定銘板」の授与

選定については,北山杉で作成した選定証をお渡しします。
認定については,漆塗りに,書家の杭迫柏樹（くいせこはくじゅ）氏（京都市文化功労者）に揮毫いただいた「彩」の文字を蒔絵で表現した認定銘板をお渡しします。

2.「所有者交流会」の開催

所有者が抱える悩みや知恵を共有いただき,更なる維持・活用を図るための知見を深める機会を提供いたします。

3.「彩る通信」の発行

各所有者の取組事例などを紹介する機関紙「彩る通信」を発行します。

4.「助成制度」の利用

維持・継承の確実性を高めて一層の活用を促進するため,修理等に対する助成制度を利用いただけます。

選定証（木製160mm×130mm）

認定銘板（漆塗り257mm×182mm）

“京都を彩る建物や庭園”の推薦,審査及び選定状況

平成23年11月に公募を開始し,これまでに市民の皆様から推薦された700件あまりの建物や庭園を審査会で審査し,所有者の同意を得た463件を選定,このうちの153件を認定いたしました。（令和2年3月現在）

京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園の中には,その存在と魅力が十分に伝わっていないものや,維持・継承が危ぶまれているものも数多くあります。

“京都を彩る建物や庭園”制度は,京都の財産であるそのようなすばらしい建物や庭園について,市民ぐるみで残そうという気運を高め,次代への継承を図っていくためのものであります。

市民の皆様お一人お一人には,それぞれの大事な「京都」を思い出させてくれる建物や庭園が必ずあります。是非とも,“京都を彩る建物や庭園”制度への積極的な御応募をお待ちしております。

京都市長
門川 大作

**・各建物・庭園については,個人住宅も多いことから,公開されていない所がほとんどです。
また,所在地に関する情報について,公開されている所のみお答えさせていただきます。
・所有者からいただいた公開等の情報は,随時,ホームページに掲載します。**

ホームページにも掲載しています http://kyoto-irodoru.com/

行政区別リスト

・リスト公表に同意を得たものを掲載しています。
・各建物・庭園については，公開されていないところがほとんどです。
・各建物・庭園の紹介文は，応募時推薦文からの抜粋です。
・各区ごと，認定・選定，それぞれ五十音順に掲載しています。
・物件に関するホームページがある場合，HPと記載しています。
・新たに選定・認定された建物・庭園については，NEWと記載しています。
・文化財（建造物，名勝）に指定・登録されている建物や庭園には文と記載しています。
・景観重要建造物，歴史的風致形成建造物，歴史的意匠建造物に指定されている建物には景と記載しています。

北　区

第3－031号

井関家 認定

明治に増築された3階部分は，四面が開く望楼風の建物となっている。枯山水の庭園には，おがたまの木や石灯籠があり，また，手水鉢の前には龍の口と呼ばれる排水口などが設けられ，先人の知恵が随所にみられる建物と庭園である。 文

第1－001号

一文字屋和輔 認定

長保2年（1000）創業の今宮神社の門前であぶり餅を売る茶店。建物は，古いもので約400年前と伝えられている。敷地の北西角に庭がある。

景

第7－024号

今宮神社 認定

長保3年（1001）創建の神社。現在の社殿は西陣の町衆を中心に明治35年（1902）に再建された。南参道と楼門は大正期に，参道の大きな鳥居は昭和3年（1928）に建てられた。 文 景 HP

第5－018号

岩井家 認定

雲ヶ畑に現存する江戸時代末期の建築で，木造入母屋造の主屋は，室内はいろりのすす跡で黒光り，大黒柱，おくどさん，太い梁，伏見人形のほていさん等，当時の雰囲気がそのまま残る。 文

第3－032号

梅辻家 認定

上賀茂に残る唯一の賀茂七家であり，主家と書院から成る。主家は上賀茂神社の鳥居を越えない切妻造りの屋根とし，書院は江戸時代に宮中から御学問所を移築したとの言い伝えがある。 文 景

第7－002号

櫻谷（おうこく）文庫 認定

大正2年（1913），日本画家木島櫻谷の自宅として建てられた住宅で，広大な敷地に和館，洋館，画室が建つ。洋館は，和洋を折衷した独特のデザインを用いる。画室は64畳敷きの大きな部屋で，小屋組は木造のトラスとなっている。 文 景 HP

第1－073号

かざりや 認定

江戸時代創業の今宮神社の門前であぶり餅を売る茶店。建物は築後450年位といわれている。銀木犀や紅葉で彩られる庭には「水琴窟」がある。

第1－003号

紙屋川庭園 認定

かつて西陣の織屋さんが日本や世界の人々の散策や交流を通じて，古代より続く日本の美の発信地にするとの思いで造り続けられたと言われる素敵な庭。

第2－001号

旧北山丸太会社倉庫 認定

磨き丸太の加工・乾燥・保管に用いられてきた。二階・中三階・三階を組み合わせた独特の外観。磨き丸太の天然乾燥のためのテラスが珍しい。

NEW

第9－022号

日下部大助家 認定

小野郷の民家。新座敷は大正時代に，柱から建具まで1本の北山杉の巨木から建てられたと伝わる。

文

第2－002号

紫明会館 認定

外観は平滑な意匠であるがスパニッシュを基調としたデザイン。建築後大きな改変は行われておらず，戦前の雰囲気をそのまま残している。

文 景

第4－001号

聖ヨゼフ修道院門の家 認定

門は煉瓦造，門番小屋は煉瓦壁と木造部が特徴的であり，中世的な意匠を持っている。全く老朽化を感じさせない堅固な建物で，周囲の歴史的な景観を醸し出している。 文

第1－006号

速水 滌源居（てきげんきょ） 認定

春は奥庭の桜，初夏はもみじの新緑とみずみずしい青苔，秋は燃えるような紅葉，冬は静寂の中の雪景色として四季折々，様々な面を露地・庭が見せてくれる。

景 HP

第8－051号

船岡温泉 認定

地元だけでなく観光客にも人気の銭湯。大正12年（1923）に開業し，開業当初は，料理旅館船岡楼と，その附属施設として，船岡温泉，理髪店が建てられた。 文

第8－050号

旧藤ノ森湯 認定

昭和５年（1930）に銭湯として開業。外観正面の腰壁や浴室にマジョリカ風タイルが使われているのが特徴。銭湯は廃業し，現在はカフェとして活用されている。 文

第8－004号

日下部式部家 認定

小野郷の北山型民家。明和9年（1772）に建てられた。小野郷は古来より天皇家の御料地で，室内には献上品を整えるための金物や饗応のための丸炉（がんろ）などがある。 文

NEW

第1－005号

杉江家 認定

昭和2年（1927）に建替えられている。庭園の石や灯籠は100年以上前のもの。石の中には，今では手に入らない鞍馬石等の貴重なものもある。

第7－004号

高田家（博真社） 認定

昭和6年（1931）に建てられた住宅で，北側は洋館，南側は和風，地下には遊戯場がある。和洋の空間ともに上質で，家具，備品，壁紙，襖などは，建築当時に近い状態で保存されている。 文 景

NEW

第8－006号

藤井家 認定

昭和7年（1932）に建てられた住宅。東棟と西棟がつながっており，東棟西棟の1階2階それぞれに座敷がある。庭は石組で高低差をつけ，多様な植栽が植えられている。

第8－052号

西川家 認定

金閣寺の近くに建つ木造2階建ての住宅。外観は，水平線を強調した深い軒や丸窓など，モダニズムのデザインである。室内は和室と洋室がバランスよく配置されており，現代の生活にも適している。 文

第1－008号

松野醤油本店 認定

創業は文化2年（1805）。醤油醸造場だけでなく，住まいも兼ねており，南面に庭を配し，天井を高くして，涼しく暮らせる工夫がされている。

HP

第6－030号

岐美家（みちよし） 認定

昭和10年（1935）頃に建築された住宅建築。表門，主屋，離れ，土蔵からなる。主屋は庭に面して雁行して建てられ，南東角に洋館を設ける。数寄屋，洋風，寺院建築風の意匠を用いた，施主の趣味が感じられる建物である。 文

第4－022号

本野精吾自邸 認定

モダニズム建築の先駆として知られる本野精吾氏の自邸。中村鎮式コンクリートブロックを採用した本野氏作品の最初の住宅である。コンクリートブロックをむき出しにした外観や玄関，門に使用されている煉瓦が印象的である。

第6－031号

鷲田家 認定

昭和11年（1936）に建築された木造2階建の数寄屋風住宅。中廊下を挟み接客空間と日常生活空間に分かれる平面形式で，通り側には洋風応接間も備える。玄関へのアプローチには，蹲居や織部灯籠を用いた庭が設けられている。

NEW

第5－020号

和幸庵 認定

昭和28年（1953）以前に福徳銀行創設者が材木商から買い取った約190坪の邸宅で，能楽や茶道・華道などの伝統文化を楽しむ活動の拠点となっている。

HP

岩井木材

明治時代に建てられ，野菜の市場として使用されていた京町家。室内は外観から想像できない大空間が広がっており，現在は磨き丸太販売促進のためのショールームとして使われている。

第7－001号

岩戸落葉神社

小野郷の神社。巨大な岩の前に岩戸社（小野上村の氏神）と落葉社（小野下村の氏神）が祀られている。境内には４本のイチョウの大木が立ち，紅葉が美しい。

第8－001号

上田家

中川地域に2軒ある茅葺住宅の1軒で，明治よりも古い時代の建築。枝垂桜等の花々が植えられていた庭には，台杉が植えられ北山らしい風情がある。明治の大火でも焼失せず，維持管理がよくなされ，昔の面影を漂わせている。

第2－047号

植松家

加茂街道の近くに建つ近代和風住宅。主屋，洋館，蔵などが建つが，道路からは高塀に隠されている。庭は桜や楓などが植えられ，主屋や洋館などから眺めることができる。随筆家 岡部伊都子が暮らし，執筆活動を行った住宅である。

第8－002号

NEW

京苑

昭和5年（1930）に建てられた近代和風建築の住宅で，室内の各所には，檜，紫檀，黒檀などの木材が使われている。現在は宿泊施設として活用している。

第9－029号

京見峠茶家

西の鯖街道沿いに建つ。江戸時代には旅籠だった。昭和30年（1955）頃に茶屋を開業したが数年前に閉店。室内には，おくどさん，古文書，民芸品など貴重な品々が残っている。

第8－030号

旧森菅家

林業で栄えた中川の住宅で，明治の大火のあとに建てられた。丸太を磨くイケ，磨き丸太の加工，乾燥，保管のための倉庫など，中川林業の暮らしの様子を伝えている。

第8－003号

NEW

暁雲荘（ぎょううんそう）

和館，洋館，八角形の茶室，回遊式庭園を持つ近代和風の邸宅。昭和11年（1936）に建てられた。庭園に面してガラスを多用した開放的な空間が特徴。

第9－030号

久保家

鴨川の源流の山里，雲ケ畑に建つ築100年を超える民家。周囲の山々と建物が一つの風景となっており，たなびく煙は懐かしい暮らしを思わせる。

第6－001号

NEW

小西家

南と東に豊かな庭があり，よく手入れされ，四季折々に美しい。創建当時の趣を色濃く残している。

第9－005号

NEW

咲耶楼

平楽寺書店を建てた「からき屋工務店」(唐木半七)により建てられた。和室も洋館も良い状態で保たれ，大切に守られていたことがわかる。

第9－001号

神光院

神光院は京都三大弘法のひとつとして知られる。本堂は文政12年（1829）の建築である。明治の廃仏毀釈により一時廃寺となったが再興した。境内には，本堂，中興堂のほか，太田垣蓮月が晩年を過ごした蓮月庵が残る。景

第4－021号

重山文庫（旧新村家）

広辞苑を編纂した新村出（しんむらいずる）の旧宅。木戸孝允別邸の一部を移築した建物で，明治初期の趣を残す。現在は重山文庫として，奥座敷などが公開されている。

第8－031号

中田林業倉庫

戦前に建てられた。川に面しており，磨き丸太の加工場と倉庫として使われてきた。母家も同じ敷地にあり，職住近接となっている。北区役所主催の市民コンテストで第一位となった写真が清滝川とこの倉庫である。

第2－049号

柊湯

柊野の銭湯。開店から50年以上になる。タイルに描かれた浴室の絵が美しい。現在，このようなタイル絵をつくる職人がいなくなっており，貴重である。

第8－032号

福田家

区画整理事業で生まれた小山に建つ近代洋風住宅。煉瓦の門や塀，赤い屋根瓦，クリーム色の外壁が目を引く。アーチ窓，玄関ポーチなどのデザインが凝っている。

第8－005号

高桐院

慶長年間（1596～1615），細川忠興（三斎）が父である藤孝の菩提を弔うため創建された大徳寺の塔頭寺院。方丈や客殿，周囲を紅葉の疎林で埋める庭園等は，三斎の人となりや言い伝えが寺内各所に残されている。

第5－019号

小林家

昭和39年（1964），増田友也設計により建てられた住宅。外観はピロティや打ち放しコンクリートの壁面などル・コルビュジエを思わせるが，室内は襖や障子を用いた和の意匠が用いられている。

第7－003号

しょうざん光悦芸術村

庭園は料亭の和風建築の横を流れる小川，樹木の茂みや苔むした斜面から造られている。台杉の庭や，紅葉の季節には両岸から覆いかぶさるように染まる紅葉が見もの。

HP

第1－004号

宗蓮寺

北山杉や紅葉の木に囲まれた山寺。台杉の庭園がありその根元には山地に生息する野草が花を咲かせる。書院から眺める北山杉の借景には心が癒される。

第2－003号

中川八幡宮社

室町以前に創建され，大火により焼失も明治28年（1895）に再建。境内にある白杉は推定500年を数えられる。山の傾斜地に建ち，鎮守の杜として山の神々を祀ったという由緒にふさわしい趣を持っている。

第2－048号

日本福音ルーテル賀茂川教会

ヴォーリズが設計した教会で，昭和29年(1954)に建てられた。礼拝堂は祭壇上部のアーチが印象的で，木の小屋組，白い壁，木の腰壁で囲まれた温かみのある空間である。

第8－026号

平野の家 わざ 永々棟

大正から昭和に活躍した日本画家 山下竹斎の邸宅兼アトリエとして，大正15年（1926）に建てられた木造の建物。近年，数寄屋大工による保存修理工事が行われ，現在は，茶道教室，いけばな教室，講演会，コンサートの会場として活用されている。

第8－033号

藤本家

中川地域で最も古い民家の一つ。玄関脇には，中川地域では珍しいバッタリ床几が備えられる。周りにある苔むした路地，古い木造倉庫，石垣に埋め込まれた地蔵等と調和して美しい景観を醸し出している。

第2－065号

NEW

牧野家

大正時代に建てられた旧衣笠園の住宅で，前庭と中庭がある。牧野家は，昭和 20 年頃，甲子園の自宅が焼 失したため，この地に戻った。

第9－006号

松野家

約200年前に建築。40年程前の新聞に「典型的な武家屋敷」として取りあげられた。敷地内には，「茶屋四郎次郎邸跡」の石碑がある。

第1－007号

椋本家（むくもと）

茅葺にトタンを被せた屋根の住宅で，明治期以前の築。付属の小屋は磨き丸太の加工と作業道具や薪などを保管するために使われてきた。住宅と小屋が良く調和して，北山地域の昔の生活様式や風情をよく残している。

第2－050号

森勘商店倉庫

昭和4年（1929）建築の2階建倉庫。1階の妻側は庇が大きく出ており磨き加工を行う作業場となっている。また，2階の天井はなく長尺の丸太を立てかけられるようにしている。風情のある景観になっている。

第2－051号

森久商店倉庫

昭和11年（1936）建築の北山杉を磨き加工し，自然乾燥させ，販売まで保管する倉庫。周りの木造倉庫群と調和して美しい景観を作っており，磨き丸太生産の全盛時代を髣髴とさせる建物である。

第2－052号

山治林業倉庫（やまじ）

中川地域の2階建て倉庫の中で，最も棟が高く，大型の建物。内部は尺長の丸太を立てかけられるように多様な高さが確保されている。2階にはテラスが設けられ，磨き丸太の乾燥場として利用されてきた。

第2－053号

吉水庵 銅閣

旅館にあった茅葺の茶屋を，地元の大工，左官の尽力により移築した建物である。後代の改修と思われる箇所は古式に戻し，茅葺屋根を取り払い，代わりに数寄屋造の三層目を設け，唐破風，鳳凰を据えている。

第3－001号

上京区

第6－002号

今原町家 認定

住居兼組紐製作場として昭和4年（1929）に建築された表屋造の町家。内外に町家の特徴を残し，2階には洋館風の部屋が配されている。町家や生活文化の継承のため，住まいながら飲食店やイベントに活用されている。 HP

第7－025号

今宮神社御旅所 認定

三基の御神輿を鎮座する御旅所。現在の建物は，天明の大火（1788）で焼失した後，寛政期（1789～1801）に再建。能舞台では昭和40年代まで今宮御旅能が奉納されていた。 文 HP

NEW

第9－048号

入江家 認定

土間の吹抜け，オクドさんの残る台所，掘炬燵から見る庭が好き。正月に親族が集まり，茶室と座敷を空け放してお雑煮を食べる。親族にとっても大事な建物である。

NEW

第7－005号

太田家（旧太田喜二郎アトリエ） 認定

大正13年（1924），洋画家太田喜二郎の住宅として建てられた。設計は藤井厚二。アトリエは太田自身の設計で，光の取り入れ方に画家のこだわりがうかがえる。居間やアトリエは建築当時のままである。

第6－003号

北村美術館 四君子苑 認定

数寄屋造の名工北村捨次郎により昭和19年(1944)に建築。進駐軍の接収後,住宅棟はモダニズム要素を含んだ近代の数寄屋として改築された。庭は多彩な石造品を配し,比叡山・如意ヶ岳を望めるなど趣向に富んだものとなっている。 文 HP

第2－054号

大市（だいいち） 認定

元禄年間(1688～1704)創業のすっぽん料理店。330年前の建物がそのまま残り,玄関には刀傷や槍の痕がある。帳場の結界などもあり,志賀直哉の暗夜行路など多数の小説に登場している。 HP

第2－004号

冨田屋（とんだや） 田中家 認定

6つの坪庭,2つの井戸,3つの蔵から構成された町家。表屋造りには商売をしながら暮らす知恵が感じられる。住むための行事やしきたりをこなせるように作られている。 文 景 HP

第7－028号

宝鏡寺 認定

応安年間(1368～75)に,光厳天皇皇女 華林宮惠厳禅尼が開山した尼門跡寺院で,人形寺の名で有名。春と秋に人形展が開かれ,年に一度,人形供養を行なっている。 文 景 HP

第8－053号

山本家(仁風庵) 認定

昭和15年(1940)頃に建てられた近代和風住宅。施主の山本仁三郎は,岐阜で白生地商を営み,大正9年(1920),京都に店舗を構えた。

文 景

第5－022号

湯本家 認定

明治期の建築と推定される平家建ての木造建物である。歴史学者湯本文彦が終の住家としたことから,同人に関する研究資料等が多く残されている。

第1－013号

静家（せいけ） 認定

建物は明治初期のもの。オリジナルのステンドガラスなどが施されている。坪庭や中庭は,昼はやわらかい光に包まれ,夜は優美で厳かな雰囲気と違った表情が見られる。 HP

第7－027号

大聖寺 認定

永徳2年(1382),室町御所岡松殿を尼寺としたことにはじまる尼門跡寺院。元禄10年(1697)に現在の地に移る。境内の南に枯山水の庭園がある。建物,庭園,ともに非公開。 文 景

NEW

第9－049号

林家 認定

上七軒で最初とも伝わる茶屋「二見屋」を前身とする町家。2階座敷の吉原格子,書院造の表座敷,離れの茶室,中庭など,よく残っている。

第1－015号

萬亀楼（まんかめろう） 認定

享保7年(1722)に造り酒屋を創業。安永9年(1780)に茶店を営み料理を供するようになる。主屋は明治5年(1872)の建築。お部屋に生ける茶花は敷地内で育てている。 景 HP

第1－016号

有斐斎 弘道館 認定

江戸中後期の京都を代表する儒者,皆川淇園が創立した学問所「弘道館」の址地とされる敷地に建てられた数寄屋建築。庭は南北にあり,茶庭として使われている。 HP

朝日玉姫鵺大明神社

平安時代末期の武将源頼政が鵺という怪鳥を射落とし，その射落とされた鵺を祀った神社。主税五ヶ町が協同で管理されており，社を中心に形成されている同町のコミュニティのあり方を後世に伝え残すことも含め大切である。

第5－021号

石﨑家

大正14年(1925)，藤井厚二が設計した木造2階建ての住宅。保存状態が良く，藤井の住宅に対する設計思想を見ることができる。藤井厚二が設計した住宅で現存する数少ないもののひとつ。

第8－034号

岩上ホール

昭和30年（1955）頃に建築。織工場を改装した落ち着いた木造の建物。どこか懐かしい外観が，石畳のまちなみと見事に調和している。

第1－009号

上木家

表の格子のたたずまいは，昭和初期の典型的な西陣の商家に見えるが，壁紙の裏紙に使われた新聞紙から明治期の建築とも推測される。以前は糸商として使われていた。

第1－074号

織成館

京都を代表する町家が現存する西陣大黒町の中心的な存在。店の間，前の坪庭，住居そして倉と，昭和初期の代表的な建物。

HP

第1－010号

織成宿所

昭和初期，織屋で財をなした渡邉文七が隠居仕事として，一町内全て借家を建て，借家町が誕生。その中の一つで，会員制の宿泊施設として使われている。

第1－011号

織成宿所 上七軒

日本のお茶屋発祥の地である上七軒で廃業されたバー形式のお茶屋さんを隠れ家的に使用。さすが上七軒と呼ばれるに相応しい貫禄がある。

第1－012号

勝間家

烏丸通沿いに建つ近代和風建築の住宅。昭和元年（1926）頃に建てられ，烏丸通に高塀と建物が並び，ミセニワ，ツボニワ，ザシキニワを持つ。座敷は書院造りだが，床柱に磨き丸太を使い，柔らかさを生んでいる。 景

第7－026号

上七軒 長谷川

上七軒のお茶屋だったが，近年はお茶会や落語会に使用されている。離れの座敷は広く，奥には茶室と土蔵があり，裏庭にはお火焚きさんの祠がある。

第8－007号

NEW

光照院

長い歴史を持つ尼門跡寺院。延文元年，室町一条に創建され，応仁の乱の後，現在地へ移った。江戸時代，光格天皇から「常盤御所」の称号を賜った。

第9－007号

NEW

笹屋町一丁目町内会の町家

江戸時代に建てられた町家（ちょういえ）。地蔵盆では正面の平格子を外し，和室にお地蔵様を移してお祀りする。今後も大切に受け継いでいただきたい。

第9－031号

NEW

三時知恩寺

数少ない尼門跡寺院。どことなく優しい趣があり，襖絵や調度品など，皇女らしい雅な品々が保存されている。老朽化が進み，援助が必要である。

第9－008号

慈照院

相国寺の塔頭で，桂宮家の学問所として建築された書院（棲碧軒），千宗旦によって作られた茶室（頤神室）や樹齢300年を超える陸船松と称されるクロマツが植わる枯山水式庭園が配されている。

第5－022号

水火天満宮

都の水害と火災を鎮めるため，醍醐天皇の勅願で，水火社天神天満宮として延長元年（923）に建立された日本最初の天満宮。昭和25年（1950），堀川道路拡幅の際に現在の地に移転した。 景

第8－035号

千本ゑんま堂・引接寺

ゑんま堂は，厨子虹梁絵様から17世紀に建立されたと考えられる。近年の火災で，屋根と天井を焼失するが，残された閻魔王とその脇侍をまつる厨子が他にはない迫力を見せる。境内には重要文化財の石造十重塔等の文化財がある。 HP

第4－002号

大根屋

京都の町並みを作っている格子を始め，種々な要素を多く持っている建物。外観を残しながら，西陣の工場として内部は織機が置けるように高い空間と柱の間は広くとられている。

第1－076号

大将軍八神社

北野天満宮の南に建つ神社で，本殿は昭和3年に建てられた。本殿と拝殿は一体となっており，背面に縋破風がつく。洗練された意匠で，特に錺金具は見事である。 HP

第7－006号

バザール・カフェ

大正8年（1919），キリスト教宣教師の住宅として建てられた。設計はヴォーリズで，現在はカフェである。オープンデッキのある庭，室内の暖炉など，建物と食事を楽しめる癒やしの場である。 HP

第7－007号

be京都

空き家から貸しギャラリー兼イベントスペースとして再生され，「美しい"美"の京都がここにある」という思いをこめ命名された。江戸期からの歴史を持つ京町家であり，隣接する寺院の山門と連続した良好な景観を形成している。 HP

第4－004号

宮岡家

外観に大幅な改変がなされていたものから，近年，復原工事が行われ，外観や火袋を復元するなど内装に関しても，京町家としての風情を取り戻した。間口5間の大きさから地域の景観に寄与している。

第4－003号

横山家

西陣に建つ大型の京町家で，明治時代に建てられたと伝わる。建築当時の姿をよく残しており，景観に重要な役割を果たしている。内部の保存状態もよく，火袋の小屋組みも美しい。 景

第7－008号

若山家

間口が広く表蔵があり，虫籠窓，柱横には格式ある家のみ付けるものとの言い伝えがある「笄（こうがい）」が取り付けてある。氏神の祭禮には家を開放して町内の祭道具の飾り場所となるなど風格が感じられる。

第3－034号

NEW

西陣寺之内通の町家

織屋建ての町家。ホテルやマンションの建設が増え，失われつつある西陣の歴史的景観と地域文化を継承するために推薦する。

第9－032号

筈井家

安土桃山時代の絵師 海北友松（かいほうゆうしょう）とその嫡子である海北友雪（かいほうゆうせつ）ゆかりの町家。江戸時代から明治時代まで，京都の禁裏で御用を務める絵師の家として存続した。現在の町家は明治時代に建てられた。 景

第8－008号

法輪寺

だるま寺の名で親しまれているお寺。臨済宗妙心寺派で，享保12年（1727）に創建された。だるま堂には，奉納されただるま八千体余りが並んでいる。二月の節分には多くの参拝者で賑わう。 景

第8－036号

文殊院

承応3年（1654）に伊勢暦の暦師だった浅井長政の末裔が，京都に移建した真言宗醍醐派の寺院。蔀戸が連なる本堂や庫裏は築150年以上と推定される。風格のある門構えや松の緑の外観，地域の集まりにも使われる庫裏が，地元の人々に親しまれている。

第5－023号

NEW

吉田家

大正期は生糸問屋，戦後は医院，現在は設計事務所と，商いの形を変えながら引継がれている町家。地域の方の思い出の中でも生きている。

第9－009号

左京区

第1－017号

青山家 認定

京都大学名誉教授である青山秀夫とその教え子達の思い出の建物と庭。庭の池には川から水が流れ込み，建物と共に風流で歴史的な面持ちがある。

NEW

第6－032号

岩井家 認定

昭和32年（1957）に建築された木造2階建の住宅建築。村野・森建築事務所の設計とされ，大和棟に似た大きな屋根が特徴。2階客間には創作的なつくりの床の間が残る。

第8－009号

上田恒次家 認定

陶芸家の上田恒次が設計した自邸。昭和12年(1937)に陶房を建て，昭和17年(1942)ごろ住居部分を増築。民藝運動の場となった陶芸家の製作と生活の空間を伝えている。 文

第8－010号

小川家 認定

左京区鹿ヶ谷に建つ2階建ての近代洋風住宅。大正11年(1922)に建てられた。設計は武田五一。わが国の鉄筋コンクリート造住宅のさきがけである。武田五一が設計した数少ない現存する住宅として貴重である。 文

第6－004号

杜若(かきつばた)家 認定

約280年の歴史を刻む茅葺の民家。建物南側の庭には，第55代文徳天皇の第一皇子，惟喬親王のお手植えと伝えられている杜若が咲いている。

第8－012号

旧喜多家 認定

藤井厚二が設計した住宅で，第4回実験住宅の工後の大正15年(1926)に設計された。外部は，屋根，軒，庇がリズミカルで，室内は明るすぎず落ち着いた雰囲気である。 文

第3－035号

鞍馬駅 認定

開業当時からの建物で，重層な入母屋形式の和風屋根が背景の山並みに溶け込む風景は，清々しく感じる。また，白壁も印象的で待合室には古典的な趣のある照明があるなど，木造の温もりが感じられる。

第6－005号

駒井家 認定

昭和2年(1927)に建てられた，米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計の住宅。建物はスパニッシュ様式で，赤茶色の瓦屋根とスタッコ壁が用いられ，アーチ型の窓，テラス，パーゴラが外観に彩りを添えている。 文 HP

第5－025号

大野家 認定

本二階建て，瓦葺きで，高塀を持つ大正末期から昭和初期の建物である。京都パラダイス遊園地の跡地であるこの界隈は，同時代に建てられた建物が多く残り，通りの景観は往時の様子を留めている。 景

NEW

第8－011号

小川家別邸 認定

小川為次郎の妻の小川むらが，為次郎の死後，ひとりで住むため昭和9年(1934)に建てられた住宅。設計は藤井厚二，大工は北村伝兵衛など，小川むらが一流の人を集めた。

第1－018号

川端彌之助(やのすけ)アトリエ 認定

洋画家である川端彌之助(1893～1981)のアトリエとして大正14年(1925)に建築。愛用のイーゼルや書籍がそのまま残され，当時の様子を今に伝えている。 文

第8－013号

旧建部歯科医院 認定

増田友也が設計した鉄筋コンクリート造の診療所兼住宅。昭和28年(1953)に建てられた。小規模な建物にモダニズムの合理性と増田の感性が融合している。

第5－001号

ケーブル八瀬駅 認定

洛北の開発と比叡山への登山を目的として，大正14年(1925)に開業した。かつて，西塔橋駅と呼ばれていたこの駅舎には，鉄骨トラス造や妻飾りなど開業当初の意匠が残っており貴重である。 HP

第1－019号

十一屋 岡村家 認定

十一屋は近年まで鯨料理の専門店として営業。建物は新田街道(今は，鯖街道と命名)に面しており，旧街道のランドマーク的な存在。

第2－007号

聖護院 認定

寛治4年（1090）白河上皇の勅により創建。天明の大火の際，光格天皇の仮御所となった。狩野派の障壁画，重要文化財の書院，庭の砂紋など目を引きつける。 文 HP

第1－020号

真澄寺別院 流響院（りゅうきょう） 認定

大正2年（1913）に竣工。数寄屋建築と露地や表庭，芝庭などの複数の要素が組み込まれた自然感ある庭園は，近代別荘庭園の特徴を良く表している。 HP

NEW

第8－044号

栖賢寺（せいけんじ） 認定

南北朝時代に尼崎で開山，昭和7年（1932）に現在の地に移転した禅宗寺院。実業家山口玄洞が寄進し，元京都府技師安井楢次郎の設計による近代和風の寺院である。境内には，本堂，観音堂，鳳凰閣，鐘楼，茶室などが建ち，全体に中世の寺院に範をとった意匠である。

NEW

第6－006号

太平治家（たへじ） 認定

「太平治」を屋号とする石工の歴史を持つ建物。天保元年（1830）の地震後に再建されたと考えられる主屋奥には，江戸末期や明治初期の大火を免れたと伝わる二つの蔵がある。 景

第5－027号

南禅寺順正 認定

天保10年（1839）に蘭学医として著名な新宮涼庭によって開設された医学校のあった地である。敷地中央の書院や石門は，往事そのままに残る貴重な建物で，庭園も昔の様相をよく留めている。 文 HP

第7－033号

西川家 認定

大正期の遊園地 京都パラダイスの跡地に，昭和2年（1927）に建てられた住宅。別邸として建てられ，後に本邸となった。仏間は数寄屋風，応接室は和洋折衷で，数寄屋風の近代和風住宅に洋風意匠が加えられている。 文

第6－007号

平岡家 認定

昭和9年（1934）の建築で，モダンな外観を持つ建物内部は，庭の見える座敷や洋間の応接室を備えるなど，和洋折衷の造りとなっている。台所には，当時からの備え付けの食器棚やカウンターキッチンが残る。

第3－009号

八瀬天満宮社 認定

周囲を巨木に囲まれた八瀬天満宮社は，菅原道真の死後，師である法性房尊意僧正の勧請により建立されたと伝わる。赦免地踊りでは，女装した男性が切子燈籠を頭に載せ，境内の秋元神社に向かう行列が見られる。

第3－036号

八瀬比叡山口駅 認定

古風な印象を見せる駅舎は，開業時から形を変えず約90年間にわたり利用者を見送ってきた。ホームを覆う木造屋根が魅力的であり，波型の軒飾りはホームのアクセントとなっている。

第1－024号

山ばな平八茶屋 認定

約200年以上経つ母屋は商家造りで，庭は昭和初期の造り。陰陽を配置した庭は，四季折々の花がその庭を満たし，季節を存分に感じることが出来る。 景 HP

第1－025号

湯川秀樹旧宅 認定

晩年までこよなく庭を愛でた湯川秀樹（1907～1981）が，昭和24年（1949）に日本人初のノーベル物理学賞を受賞し，最期まで過ごした場所。

第1－026号

吉田山荘 認定

昭和7年（1932）東伏見宮家別邸として建造。重厚感あふれる総桧造りと裏菊紋の格調が織なす和と洋が融合した料理旅館。京都の四季を感じられる庭園を眺めることができる。 文 HP

第4－006号

吉村家（松雲荘）認定

眺望を活かした続き和室と洋風に仕上げられた家族室・食堂がある木造2階建ての住宅である。伝統建築を継承しつつ生活の洋風化を試み，住宅改良運動の傾向と郊外に住宅地が形成され始めた昭和初期の傾向も読み取ることが出来る建物である。 景

第5－003号

霊鑑寺 認定

書院，本堂の南面に広がる池泉鑑賞式の庭園は，東山連峰の大文字山より西に延びる稜線を利用して造られている。椿の季節には，散椿，日光，紅八重侘助など銘種約30種の花が庭園をうずめている。 文

井口家

昭和元年（1926），京都パラダイス跡の分譲地に建てられた洋館の住宅。この地域には珍しい洋館で，現在も素敵な姿を見せている。

第8－039号

井ノ口畳店

創業明治3年（1870）の畳店である。昭和2年（1927）の建物で虫籠窓が残る間口の大きい町家である。通りからはイグサの香りとともに畳作りの作業が間近に見え，風格のある看板も相まって歴史を感じさせ，風情を醸し出している。

第4－005号

内田家

北白川の志賀越道に建つ住宅。白川石，花の栽培などの産業で栄えた歴史と文化のある地域である。表に蔵を構え，表側の深い庇，街道から控えた部分に建つ主屋は，北白川の重要な住宅のひとつと考えられる。

第7－009号

内田家

北白川の志賀越道に建つ住宅で，街道から控えて建てられる。道に面した庭は，石工の作業や，花売りの場として使われたようである。石工，白川女，街道をゆく人々など，にぎわっていた頃を伝える北白川の重要な住宅である。

第7－010号

永楽庵

大正天皇の皇后が発注された茶室正副二棟のうち，副棟が彦根の西田邸に払い下げられ，昭和25年（1950）頃にこの地に移されたものと伝わる。庭は茶室や離れ等の移築を指揮した当主の父の設計で，建築群と一体で高野川河畔の景観を形成している。

第3－002号

夷川発電所

琵琶湖疏水の水を利用する発電所。大正3年（1914）完成した建物は煉瓦造平屋建てで，小規模な建物ながら，窓のアーチや入口両脇の装飾など，丁寧にデザインされている。

第8－038号

大槻家

志賀越道に建つ町家で，間口４間半の主屋と２つの蔵，庭，離れからなり，軒裏は防火のため，漆喰で塗りこめられている。大槻家は白川石を扱う石工であった。石工業で賑わった界隈の面影を伝える。 景

第6－033号

大野家

明治期に建てられた木造洋館建ての表屋を持つ建物で，奥には和館が建つ。著名な画家のアトリエとして活用されていたという伝承もあり，岡崎エリアの近代化の歴史を伝える重要な景観要素の一つである。

第5－026号

大八木家

大正の末期に建てられ約90年の歴史がある。庭園と茶室は当時のままで，茶室から見る庭園の枝垂れ桜は一幅の絵のようである。

第2－006号

鎰富弘（かぎとみひろ）

銀閣寺の近くに建つそば屋。現在の店主は三代目である。白川通と今出川通の交差点から，銀閣寺に向かって疏水沿いに歩くと左手に見える，外観に特徴のある建物。

第8－040号

北白川天神宮

境内は志賀越道沿いの山の中で，本殿と拝殿は山頂付近に建つ。参道は白川に架かる石橋を渡り，山頂へと続く。石橋は白川の石工が手がけたもの。鬱蒼とした森を貫く階段は苔むしており，厳かな雰囲気を漂わせている。

第7－029号

北白川天神宮御旅所

北白川天神宮の斜め向かいに建つ。志賀越道に面して広場があり，奥に建物が建つ。建物の外壁や軒裏は漆喰となっている。この地域は，幾度も大きな火災があったため，火災に強い建物になったと伝わる。

第7－030号

城守家（きもり）

昭和14年（1939）に城守保養所新館として建てられた。精神病患者が滞在した部屋は床の間付の座敷で，庭にも自由に出られた。岩倉には家族の付き添いなしに預かった歴史があり，「地域において精神障害者を看護する」ことにヒントを与えてくれる。

第3－003号

栗原家

大正期に建てられたと思われる近代数寄屋。座敷を中心とした間取りから，居宅ではなく，接客のために建てられたと考えられる。 景

第8－042号

蹴上発電所

日本初の一般供給水力発電所。琵琶湖疏水の水を利用している。蹴上のランドマークである赤煉瓦の建物は明治45年(1912)に建てられた。貴重な近代化遺産である。

第8－037号

小林家（旧古川家）

北白川の疏水沿いに建つ鉄筋コンクリート造2階建の住宅。昭和31年(1956)に建てられた。設計は増田友也で，コンクリート打ち放しが特徴である。

第8－041号

NEW

実光院契心園

江戸時代後期に作庭された庭園。築山の松は鶴を，池の島は亀を表現している。春夏秋冬，四季折々の表情を客殿から眺めることができる。

第9－003号

NEW

園頼三旧宅

美学者 園頼三（同志社大学教授）の旧宅。洋館と和館は大正時代に建てられ，大きな改変はされていない。現在は頼三の直系の子孫が大切に住んでおられる。

第9－027号

玉川家

蔵には5月に行われる八瀬祭の衣装を収める。祭の役を引き受けるためには，道具だけでなく神棚などの空間が必要で，大事に引き継いでいる。主屋は明治6年（1873）に亡くなった当時の主人が建てたと伝わる。水田越しに見える白壁は見事である。

第3－005号

野仏庵（のぼとけ）

数寄者上田堪庵が由緒ある住宅や茶室を移築したもので，移築の際に堪庵の好みに改修されている。淀から移築した主屋，茶室「雨月」，「陶庵」，「堪庵」，「幽扉亭」など，多くの建物が並んでいる。 HP

第7－011号

平井常榮堂（じょうえい）

元禄14年（1701）に創業し，代々医師と薬の処方を兼業されていて，明治に入って和漢薬専門店となった。通りに面して間口が広く，虫籠窓のある歴史を感じさせる佇まいで，引き戸を開けると，薬草の香りが鼻をくすぐる。 HP

第3－007号

本家西尾八ツ橋別邸

創業は元禄2年（1689）。家屋は築約100年。数寄屋建築の座敷・茶室がそのまま残っている。庭は四季折々の顔を見せてくれる。

HP

第1－022号

ケルガード家

明治37年（1904），大型林業家の邸宅として建てられた邸宅。花背原地町に建ち，杉や桧を多用している。現在は外国人向けの宿泊施設として活用されている。

第8－014号

斉藤家

2階建ての町家で，10年程前に改修され，店舗となっている。通りから窓越しに窺える店内には，オリジナルデザインの洋服や古布の小物等が置かれている。法然院の周辺の落ち着いた雰囲気の中で，両隣の町家と一体となって町並みを形作っている。

第3－006号

聖護院八ツ橋総本店 本店

元禄2年（1689）にこの地で創業した。近世筝曲の開祖といわれる八橋検校が葬られた黒谷金戒光明寺の参道に茶店を設け，検校の遺徳を偲び，琴の形を象った干菓子を「八ッ橋」と名付け販売したのが始まりと言われている。明治には多くの文豪が訪れた。 HP

第3－004号

竹中家

「水車の竹中」と呼ばれ，地域のランドマーク的存在の精麦工場であった。母屋と工場の一部と石組の水路が残る。前の小路とともに白川の景観をつくる。

第2－008号

二之部家

大工で工芸作家でもある大濱浄竿(じょうかん)が昭和43年（1968），25歳の頃に建てたと伝わる住宅。彼が日本で建てた２軒のうちの１軒で，独特な室内空間を持つ。彼の工芸作品数点はブルックリン美術館に収蔵されている。

第7－034号

早川家

昭和7年（1932）に建てられた木造2階建ての住宅。土壁，しっくい壁，木製建具，畳など，自然素材の集合体で，心身ともに元気で穏やかに過ごすことができ，静かな感動を味わうことができる。京都の気候風土にあったすばらしい住環境である。

第8－015号

瓢亭

400年余り前，小さな腰掛茶屋として開業し，天保8年（1837）から料理屋に。建物はくずやと呼ばれる茅葺き屋根の座敷で，庭園は植熊作。

HP

第1－021号

宝泉院

勝林院の僧坊として長和２年（1013）に創建された。書院は江戸中期頃に建てられた。方丈と庫裏まわりの庭園，水琴窟，京都市登録天然記念物の五葉松が見どころである。 HP

第7－031号

松田家

彫刻家松田尚之のアトリエ兼自邸。松田自身が設計し昭和11年(1936)に建てられた。アトリエは死の直前まで厳しい研鑽を重ねた場で，現在は音楽ホールとして活用されている。

第8－016号

三上家

北白川の志賀越道に建つ住宅。近くの北白川天満宮，隣の北白川天満宮の御旅所とならび，この地域の景観を形成する建物のひとつである。

第7－012号

妙伝寺

江戸時代初期，覚法妙伝和尚の開創によるものとされている。本尊には如意輪観音菩薩が安置された八瀬童子の菩提寺である。毎月執り行う念仏講では後醍醐天皇，近衛基熙，秋元喬知の他，歴代の八瀬恩人を供養している。

第5－002号

八瀬かまぶろ

壬申の乱で大海人皇子が背中に矢を受け，かまぶろで傷を癒した伝説が八瀬の地名の由来と言われる。かまぶろは外側が土壁，内側が石組で，保温性に優れた造り。江戸時代の16基が，1基のみ現存。見た目にも愛嬌があり，人々からも親しまれている。

第3－008号

八瀬童子会宝庫

八瀬童子は，皇族・公家等ともつながりが深く，明治以降は政府から天皇大礼・大喪の駕輿丁に任じられた。綸旨や京都所司代の下知状等の八瀬童子会が所蔵する資料は，一部は重要文化財に指定されており，保管していた本倉庫は八瀬の宝と言える。

第3－010号

八千代

南禅寺参道に面した純和風旅館。100年以上経った草庵茶室に依った建物は，簡素枯淡な趣を持つ。敷地の3分の1を占める庭園は，植治（小川治兵衛）の作庭で四季折々の風情が楽しめ，静寂な時へと誘う。 HP

第2－055号

NEW
山本家

大正期から昭和期の英文学者で，京都大学名誉教授，山本修二の旧宅。所有者は建物に愛着を持っており，地域の彩りとして残って欲しい。

第9－010号

NEW
山本家

先祖から受け継がれてきた町家。明治から昭和にかけて料亭として，その後は住居として使われた。京都らしい街並みとして残していきたい。

第9－033号

洛翠

明治末期に7代目小川治兵衛が作庭。庭園内には琵琶湖を模した池があり，周囲には280年前に中国から伝来したとされる画仙堂や茶室「渓猿亭」がある。

第1－027号

瑠璃光院

八瀬の広大な敷地につくられた数寄屋建築と庭園。大正末から，数奇屋造りの建物と，背景の山林を借景とした庭園がつくられた。紅葉が美しく，多くの人を集めている。 HP

第7－032号

中京区

第2－009号

青木家 認定

暖炉やステンドグラスのある洋館が通りに面する，和洋折衷の町家である。高塀を巡らせた外観は新旧が調和する界隈の街なみ整備の模範となっている。

文 景

第2－010号

岩崎家 認定

明治初期建築の伝統的な木造住宅。厨子2階建てで，出格子，虫籠窓が意匠を彩り，加敷造の軒裏からも歴史を感じる。庭は「花の庭」で四季折々の花が楽しめる。

第1－028号

上村家 認定

上村松園（1875～1949）が大正3年（1914）に建築。上村松篁（1902～2001）も制作活動をした日本画家の住宅。大正期らしい様相を残す，時代を代表する住宅建築。

第2－011号

大江能楽堂 認定

切妻屋根の舞台を中心に，見所は2階建ての別棟とし，舞台を矩折に取り巻いている。明治後期に創建された能楽堂の希少な建築遺構である。

HP

第3－040号

岡墨光堂 認定

生業である日本画の表装技術を生かし，絵画や書跡等の文化財修理をされている。大正12年（1923）に建替えられた建物で，経年の外観の傷みを近年修復された。木造の建物の風合いを生かしながら，歴史ある商売を続けている。 HP

第1－029号

がんこ高瀬川二条苑 認定

高瀬川の源流で，角倉了以，山縣有朋とゆかりがある，七代目小川治兵衛作の庭園。森鴎外の小説「高瀬舟」の舞台にもなっている。

HP

第3－042号

彩雲堂 認定

全国的にも有名な歴史のある日本画の画材店で，鉄斎の看板が何よりの宝物である。店舗入口にある4枚の建具には施主の思いが強く，近年の改修では，腰板部分を補強・化粧を施し残された。銅製の樋も経年すれば生業にふさわしい味わいが期待される。

第7－036号

島津製作所創業記念資料館 認定

島津製作所の創業者島津源蔵の住宅として明治期に建てられ，その後，約45年にわたり本店として使われた。現在は島津製作所の資料館として公開されている。 文 HP

第2－056号

炭屋 認定

大正初期に建てられ，茶道や謡曲を嗜む人たちのサロンとして始まった旅館。数寄屋建築の建物は当時のまま残る。客室の天井の網代，襖の引き手，聚楽の壁など今も大切に残され使われている。 HP

NEW

第7－037号

田畑家 認定

昭和5年（1930）に建てられた総檜造の町家。和洋折衷のつくりで2階に洋間がある。坪庭は裏千家今日庵に出入りする造園業者植熊によるものと伝わり，座敷を茶室としても使えるように坪庭から座敷に入ることができる。

第2－057号

俵屋 認定

宝永年間（1704～1711）に太物問屋として創業。次第に宿を本業とするようになり，江戸末期には，様々な京都の地誌に「寄宿」として記載される。蛤御門の変（1864）で全焼したが，明治初年には旧館が完成する。 文 景 HP

第5－004号

竹影堂（かざりや錺（りょう））認定

金属工芸の老舗「竹影堂」から生まれた錺細工の店である。この町家には，若手職人が作り出す，美しい銀細工の品々がミセノマに並べられ，その奥では加工作業が行われている。 HP

第7－038号

西島家（山茶花美術館）認定

明治13年（1880）に建てられた表屋造の京町家。1階の格子と犬矢来，2階の虫籠窓が特徴で，明治期の商家の様子を伝えている。現在は山茶花美術館として使われている。 文 景

第7－016号

NISSHA本館 認定

煉瓦造2階建ての洋館。明治39年（1906），工場の事務所として建てられ，現在は印刷技術に関する収蔵品や会社の歴史をたどる資料を展示している。外観は連続したアーチ窓が並び，玄関にはコリント式オーダーを設ける。 文 HP

第3－015号

速水家（はやみず） 認定

大正2年(1913)の建築。現存する設計図等からも，当時の様子を窺うことができる。祇園祭の頃に襖を御簾や葦戸に替え，網代を敷き，夏のしつらえにすると，坪庭から奥へと風が通り，奥座敷から打ち水した庭を見ると涼やかで，心の安らぎが感じられる。 文 景

第1－031号

柊家 認定

文政元年（1818）創業の旅館。麩屋町側の外観は駒寄せと樹齢80年余りのムベ，御池通り側は黒塀からなり道行く人の目を楽しませている。

景 HP

NEW

第7－014号

廣田家 認定

昭和2年（1927）に建てられた京町家。道路に面して洋館が建ち，奥に和風の居住空間や庭が続いている。建築当時の様子を伝える外観は，通りの良好な景観形成に寄与している。 景

第2－013号

藤井家 認定

昭和8年（1933）建築の京町家。その造りは，干し場，検品場所等といった絞り悉皆業としての仕事が効率良く出来るような配置になっている。

HP

NEW

第9－023号

藤野家 認定

大正15年建築の京町家。昨今の土地バブルで地価が 高騰し，維持に難渋しているが，ホテルにするのはしのびないので，なんとか後世に引継ぎたい。

文 景

第1－032号

先斗町歌舞練場 認定

昭和2年（1927）3月に竣工。花街先斗町で中心的な役割を果たし，鴨川をどり・水明会が開催され，現在もなお三条大橋袂の景色をなしている。

HP

第7－015号

本田家（旧寺江家） 認定

昭和9年（1934）頃，呉服業を営む寺江家によって建てられた京町家。ハシリニワや火袋を持つ構成は京町家と同じだが，西洋のモダンデザインを取り入れている点に，新しいものを取り入れる京都の町衆の心意気が見られる。

第8－017号

家邊徳時計店（やべとく） 認定

三条通に建つ。煉瓦造2階建ての店舗部分は明治23年（1890）に建てられた。店舗の奥には住居棟が建つ。3連アーチが外観の特徴で，現在はテナントとして活用されている。 文

姉小路高倉の2軒長屋（あねやこうじ）

木造総二階の2軒長屋。出格子，尾垂れが特徴的で，共にかかる簾も含め，往時の景観を伝えている。1戸は飲食店として使用されており，誰でも町家を感じられる建物となっている。

第6－027号

雨森敬太郎薬房（あめもり）

江戸時代から続く伝承薬「無二膏」の老舗店である。風格ある庵看板を備え，黒壁に虫籠窓を持った意匠は，京都の薬種業としての歴史を伝えるとともに，地域の景観を形成している。 HP

第4－023号

NEW

荒木家

荒木家の屋敷が禁門の変で焼失したため建てられた住居。京都を破壊から守るため，当時のつくりを残しているこの家を後世に残したく推薦する。

第9－034号

市古家（いちこ）

正面に掲げる「山泉」の看板は，ソニー創立者の生家である盛田合資会社の商標で，隣の「まるほ」醤油の看板と同じく，昭和12年（1937）製で初代店主の独立時に贈られたものである。近年の改修で側面を焼杉板貼りとし，落ち着いた雰囲気造りに工夫された。

第3－011号

井山家

元は生糸問屋をされていた現在の建物は，元治元年（1864）の京焼後に即復興されたもので，一部改修されているが，駒寄・出格子等は原形を留めている。蔵から見出だされた町式目は，平成版「姉小路界隈町式目」としてまちづくりの基本理念となっている。

第3－012号

植田家

オリジナルにより近い形に修復された。出格子，漆喰の色，引き戸等に昔からの京町家のしつらえが残っている。室外機を覆う格子には，ナグリ加工が施された材が使われ，品の良い表情となっている。生業である生そばの老舗と共用している庭も美しい。

第3－038号

加納洋服店

大正期の町家の表屋を昭和２年（1927）に改修し，テーラーを始めた洋服店。パラペットを建ち上げ，３階建ての洋風建築に見せている。店舗は，作業のため，トップライトから自然光を取り入れている。

第6－034号

亀末廣（かめすえひろ）

文化元年（1804）創業の老舗の菓子屋。建物は，創業当初からの外観を残す総2階桟瓦葺の主屋と築100年以上の穀物用の蔵が姉小路側に建ち，その界隈の形成に重要な建物となっている。

第5－028号

旧石川家（和久傳（わくでん）堺町店）

木造平入総2階の間口が広い町家。腰壁に金属性のパイプ格子を備えた昭和初期の町家の特徴を備え，2階の虫籠窓や軒から簾がかかる外観は，姉小路界隈の景観の重要な要素となっている。 HP

第6－008号

旧本田商店（魏飯夷堂（ぎはんえびす））

明治20年（1887）頃の建築で，元は西京白味噌醸造を営む店であったが，数年前に中華料理店として再生された。内部も当時の町家の面影が残されている。 HP

第6－009号

熊谷道具處（しょ）

明治期に建てられた虫籠窓と達筆な看板を持つ店舗型の町家である。店内は，創業当時と同様，茶道具類や古美術品が多数並べられ，地域の景観を形成している。 HP

第5－005号

誉勘商店（こんかん）

誉勘商店は，呉服問屋が多い室町通の金襴製造卸商で，宝暦年間（1751～63）創業の老舗。創業時の建物は蛤御門の変（元治元年（1864））で焼失し，現在の建物は，明治9年（1877）に再建された。 景 HP

第7－035号

岩野家

牛乳販売をされていた時の大型冷蔵庫とブルーの3枚のシャッターが残っていたが，1階に店舗用と居住用の2つの格子戸，2階窓にも面格子，壁の仕上げを変えることで，居住者の安心，景観，経済性を向上させ，壊さずに引き継がれた。

第3－037号

岡野家

外観や茶室をリニューアルされたが，玄関の敷石や井戸といった古きよきものは生かし続けていて，家へのこだわりを感じさせる。外観では虫籠窓とクーラー室外機の格子カバーが美しく映える。両側の建物とも調和している。

第3－039号

釜座町（かまんざちょう） 町家（ちょういえ）

中規模で典型的な京町家である。町内会の持ち物として，会合や地蔵盆に使用されてきた。国内外の支援団体と連携して改修し，再生された。

第2－012号

菊岡家

運送業を生業とした先祖が江戸初期に作った漆喰の石室には，家屋が消失した蛤御門の戦いの時にも，貴重品を入れたそうである。現主屋は明治20年（1887）頃に建てられた。第二次世界大戦での延焼防止のため改修した袖壁，うだつ等が現存する。

第3－013号

旧光仙洞（ババグーリ京都）

明治期の町家を飲食店として活用することで残すことを理念に，平成7年（1995）に改修された。改修にあたっては，民芸的な意匠とならないよう工夫され，内部は，町家の構造や特徴を活かした造りとなっている。 HP

第4－027号

久保田家

漆喰を塗り直し，戸袋や室外機格子カバーを設置等の改修を行われた。角地に建つ間口の広い建物なので，寺町通りから姉小路通りに入った折に，当家が見えてくると，建築協定を結び，改修も進めてきた姉小路の町並みの始まりが感じられる。

第3－041号

小林家

昭和4年（1929）築の町家である。元々八百屋を営まれていたミセノマの部分を貸し店舗用のスペースへと改修。町家の佇まいを残し，ミセノマは賃貸部分とする町家再生の好例の一つとなっている。

第4－026号

佐々木家

昭和初期型と思われる外観で，表屋造り風の建物である。通りから見ると2階建だが，内部は3階建てで，階高が高く，1階，2階それぞれに本床のある座敷があり，当時の生活を偲ぶことができる建物である。

第4－008号

里村家

建物の側面に大工が長年保管していた上物の焼杉板を使用している。隣接がガレージであり，奥行が深いため目立っている。ファサードは地味ではあるが上品な色調と仕上げに工夫がみられる。境界ブロックも漆喰風の美しさが表現されている。

第3－043号

砂川家

先代から茶道具，書画・骨董品を商ってこられたためか，家の造りにお茶の精神が表れているように見える。飾窓が改修の際も移設して残される。その中に置かれるお茶花が，道行く人をさりげなくもてなし，先代からの精神を今に伝えている。

第3－044号

島津製作所旧本社

昭和２年（1927），島津製作所の社屋として建築された。武田五一が設計顧問をつとめ，ロマネスク風の柱頭，三角形のモチーフなどが特徴。昭和初期の都市景観を伝える建築である。 HP

第6－035号

膳處漢（ぜぜかん）ぽっちり

昭和10年（1935）に呉服店兼住居として建てられた。表屋造の町家の構成を踏襲し，およそ200坪の敷地に洋館，和風の居住棟，離れ，土蔵が建つ。現在は，中華料理店「膳處漢」と，バー「ぽっちり」として利用されている。 HP

第7－013号

染殿（そめどの）院

「安産祈願のお地蔵さん」として名高い寺院である。建物は，どんどん焼けの際，仮堂として建てられたものと云われている。喧騒な通りから一歩境内に入ると厳かで静かな雰囲気を味わうことができる。

第5－006号

谷口家

砂糖卸商を生業としていた仕舞屋の名残として，往時をしのぶ7枚の表戸が特徴的である。夏季は格子枠だけのすこぶる風通しのいい表戸に入れ替える。平成18年（2006）に景観に配慮した改修を行った。地蔵盆と姉小路行灯会では沢山の方々が集まる。

第3－014号

玉の湯

明治期に建てられた，市民に広く愛される歴史ある銭湯である。正面玄関のタイル張りの部分の奥には当時からの町家の部分が残っている。

HP

第5－007号

鳥居家

化粧柱を採用してアクセントを強調している。玄関扉をアルミ戸から木製格子に交換したことで，開口幅を拡げて利便性を高め，同時に景観性も向上させた。更に銅製の樋を採用したことで高級感を高め，趣のある京町家に仕上がっている。

第3－045号

日昇別荘（にっしょう）

一の宮城主杉浦三郎兵衛が秀吉の命で居住。昭和24年（1949）に日昇別荘として開業。茶室は，昭和初期のもので，大工の手間が入って美しい。

HP

第1－030号

西村家

9年前に大正期の町家を現在の住環境に適した町家として改修された。外観は，古材を活用するなど町家の雰囲気を残しつつ，内部は，耐震，バリアフリー，断熱対策を講じたものとなっている。

第4－028号

百芳軒（ひゃくほう）

明治初期に蚕糸問屋として建てられた典型的な京町家スタイルを残している。マンション開発が進む立地にある中，京町家の意匠を後世に残すだけでなく，地域コミュニティ活性化の拠点として開放されている。

第3－050号

福井畳店

創業100年以上の老舗の畳店。木造2階建て平入りの建物で，表通りに面した1階の土間が作業場となっており，店主の手作り作業が見られ，高倉通りの風情となっている。 HP

第4－025号

NEW

藤井家（東宅）

大正時代に建てられた町家で，内玄関の下には防空壕が残っている。祖父が購入したこの町家を，子どもに受け継がせたい。

第9－012号

NEW

蕪村菴京都本店

六角堂の近くに建つ，与謝蕪村にちなんだおかきの専門店。素朴ながらもどっしりとした存在感のあるつくりで，店内は梁や井戸など昔の風情を残す。

第9－035号

前田家

明治29年（1896）に建築。おくどさん・走り庭・鍾馗さん・虫籠窓・布袋さん・三和土土間・箱階段・井戸・吹き抜け空間等を残している。庭は枯山水様式。

第1－033号

松尾家

築90年程経っている建物に，近年室外機に虫籠窓のピッチや形状を考慮した格子枠をつけ，景観的に配慮された。京呉服の販売を生業にされ，室内の赤色の配色により，店頭には品のある色気が感じられる。

第3－046号

三原家

間口が大きく，格子の前にお地蔵さんがある町家である。大正時代に改装されたと思われる2階の洋間や，トオリニワの吹き抜けにある欄間などに特徴があり，通り景観としても，これからもずっと京都に残してほしい建物である。

第4－007号

壬生狂言ゆかりの庭（尼ヶ池）

壬生狂言を代表する演目である「桶取」の発祥の地。尼ヶ池の歴史は古く，平安時代の朱雀院の一部であると言われている。春の壬生狂言の際には，故事通りに池の水を汲んで壬生寺の本尊に供えられている。

第6－010号

村上開新堂

明治37年（1904）創業の洋菓子店である。看板の文字，カーブのついたショーウィンドウなどレトロな佇まいが歴史を感じさせる。店内には木枠のショーケース，タイル貼りの床などが当時のまま残されている。 HP

第4－024号

森口家

改築前の看板建築を，京町家らしい木の暖かみのある建物に復元し，耐震への備えも同時に行われた。デザイン上のアクセントになっている防火壁は，延焼防止の役割を果たすだけでなく，町並みを形成している景観要素の1つとなっている。

第3－048号

森田家

白い土壁が特徴的で，天井の煤竹も風情がある。竹内栖鳳が銅駝校で絵画を勉強していた頃に,下宿していたと伝わる。通りに面する坪庭に，家の前を行き来する人たちを招き入れて，お茶のおもてなしをされている。

第3－016号

八百三（やおさん）

宝暦年間（1751～1764）創業の柚味噌の老舗。総2階桟瓦葺で，格子，腰板を備えた外観は，当家から作り出される伝統の味とともに商家としての形が残されている。

第6－028号

吉川

数寄屋造りの純和風建築と小堀遠州の作庭と伝えられる百坪あまりの庭園を有する料理旅館。建物は大正7年（1918）建築で4部屋の茶室を有する。今では手に入らない材木が各所に使われている。 HP

第2－058号

吉澤家

近年の改修で，全体のバランスを考慮して従来よりも扉格子のピッチを細かくし繊細さを表現すると同時に，樋や水切りにも銅を多用して上質感を高めている。真新しく輝く銅の美しさも時間とともに緑青へと変化して味わいを深めてくれる。

第3－049号

東山区

第6－012号

今村家 認定

鴨川を挟む五条通から九条通までの大仏柳原庄の庄屋として450年続く旧家である。建物は，近世中期の町家の遺構として形式を保っており，その来歴・変遷が今村家文書に詳細に残されている。

第4－009号

ウェスティン都ホテル京都 葵殿庭園及び佳水園庭園 認定

七代目小川治兵衛に築かれた葵殿庭園は，ダイナミックな雲井の滝，流れ蹲，沢飛び石などが特徴的で，長男白楊作の佳水園は，山水が岩肌を這うように流れ，繊細かつ躍動感のある庭となっている。 文 HP

NEW

第9－024号

小川文齋家 認定

五条通に面して建つ表屋造の町家。敷地の奥には明治前期につくられた登り窯があり煙突が建つ。製陶業の繁栄を伝える遺構である。

文 景

第5－031号

順正清水店 五龍閣 認定

松風嘉定の邸宅として大正年間（1912～1926）に建築され，設計は日本の近代建築に大きな影響を残した武田五一である。洋館でありながらも随所に和風の面影が残る貴重な建物となっている。 文 HP

第4－029号

総本家ゆどうふ奥丹清水 認定

創業寛永12年（1635）の精進料理店である。座敷客間から見える庭は，小川が流れ，桜や紅葉など四季を感じることができ，600坪という広さもあって通りからは想像できないような空間が広がっている。 HP

第4－033号

そば茶寮澤正 認定

そば茶寮澤正は，かつて貿易商の岩坪熊次郎が昭和2年（1927）に建てた広大な住宅の応接部分にあたる。座敷天井板は，伊勢神宮の撤下古材を下賜されたものと伝っており，施工には最高の技術を持った職人がついたと言われている。 HP

第1－043号

丹嘉（たんか） 認定

京の町にあって親しみを感じる店構え。ガラス越しに見えるお人形は愛らしく，屋根には鍾馗さんならぬ，えびす様や福禄寿，金太郎さんが並ぶ。

HP

第1－044号

長楽館 認定

明治42年（1909）に，日本の煙草王・村井吉兵衛がヨーロッパの様々な建築様式を組み込んだ迎賓館として建築。往時の香りが残る雰囲気の中，現在はカフェ＆レストラン。 文 HP

第3－053号

八木家（洛東静処（せいしょ）） 認定

白川沿いの広大な敷地に営んだ別邸を原形とし，現在は居住棟と土蔵，庭園の一部が残る。居住棟は，大正天皇即位御大典でも大きな役割を担うなど当時を偲ぶ数寄屋風建築として後世に伝えていくべき住宅である。

青山家

元々精米業を営む。母屋と連続した作業所には水車と疏水から水を引き込んだ形跡がある。白川沿いの板塀の外観は写真撮影の場となっている。

第2－014号

あじき路地

長年空き家だった明治末期の長屋を入居者も手を入れて大改装され，みなが家族のように暮らす若者の創作活動の職住一体の場として再生された。おだやかで凛とした空気が流れ，昔ながらのスタイルを保ち続けている。 HP

第4－010号

いづう

創業天明元年（1781）から現在の地で営業。露地，茶室庭は，多少の変化があるものの，基本的な姿は，創業当時そのまま。

第1－034号

市村家

明治初期の建築で，2階の格子や踊りの舞台だった板間空間など，御茶屋建築の意匠を伝える四条通に残る数少ない京町家である。近年，1階外観についても，伝統的な意匠に復原された。

第5－029号

いもぼう平野家本家

八坂神社のすぐ近くの東北に位置。数寄屋風の日本建築で，敷地内から屋根を突き抜ける「椋（樹齢約200年）」の大木の大きな枝が建家全体を覆っている。

HP

第1－035号

いもぼう平野家本店

江戸時代から代々暖簾を受け継ぐ料理店。外回りは黒文字垣，二階は虫籠窓，壁は聚楽となっており，昔ながらの雰囲気を多くの方が好まれている。

HP

第1－036号

URAGNO（旧森商店）

築90年を超える建物は，日本最初の路面電車を京都で走らせた京都電燈株式会社の大佛変電所の一部として建てられたものだと言われ，和洋折衷の意匠が独特な空間を醸し出している。 HP

第5－030号

オダ薬局

寛政8年（1796）開業の薬局。建物は典型的な町家形式を残し，奥の光天井がある吹き抜けは，光と影がつくりだす幻想的な空間を作っている。

第1－037号

小野家

建物は，明治20～30年代頃のもので，特に目を引くのは床脇の天袋で，曲線を活かした独創的な意匠。庭には織部灯籠が置かれ，水琴窟が埋められている。 HP

第1－038号

NEW

片山家

人間国宝・五世 井上八千代を輩出する片山家は，江 戸時代から「能の家」で，能や京舞の稽古場を備え， 京舞に親しんでもらう催しを開催している。

第9－013号

祇園まちなか案内所

築百年の町家を改修され，まちづくりや地域活動，情報発信の拠点として活用されている。長い路地が印象的で祇園らしく女性的な造りの家屋である。また，通風採光の妙を心得た造りとなっている。

第3－051号

旧熊倉家

五条坂の近くに建つ住宅で，昭和初期に建てられた。熊倉工務店の社屋として使われたこともある。近年改修され，宿泊施設として活用される予定である。

第8－045号

小町家

京漬物屋兼住居だった築100年の町家を改修した貸し町家。土間，通り庭，虫籠窓，格子戸，坪庭など美しい京町家の意匠が詰まっている。

第1－040号

天得院

正平年間（1346～1370）創建の東福寺の塔頭。方広寺鐘銘事件により取り壊され，天明9年（1789）に再建された。本堂は，江戸中期に移築したものである。桃山時代の作庭とされる杉苔に覆われた庭には，桔梗の花が美しい。 HP

第5－032号

富美代（とみよ）

祇園甲部のお茶屋で，文化年間（1804～1818），大きなお茶屋である富田屋(とんだや)から別家し創業した。現在の建物は大正3年（1914）に建てられたもので，風格ある外観は祇園らしさを生み出している。 景

第7－040号

半兵衛麩本店

元禄2年（1689）創業の麩屋。町家と洋館が並んで建つ。町家は1階が展示室とお食事処，2階が事務室，洋館は1階が店舗，2階がお弁当箱博物館の展示室である。 HP

第8－019号

鐘鋳町（かねい）2軒長屋（市川屋珈琲，八重家かねい町）

口伝によると築200年あまりともいわれる木造つし2階建ての2軒長屋。多くの町家が残る町並みの角地に立地する本建物は，周辺地域の景観形成に寄与している。近年，当時の風情を活かしながら新たに改修，再生された。

第6－013号

甘春堂東店

慶応元年創業の和菓子店。出格子，虫籠窓，軒灯看板，煙り出しを備えた町家の面影を残す店構えである。元は菓子工場だったが，昭和末に現在の店構えとなった。菓子作りと同様に，建物も往時を伝える。 HP

第6－036号

喜多見家

明治末，喜多見家の住まいとして建てられた京町家で，主屋は二棟がならんでおり，北棟は本二階，南棟は厨子二階。喜多見家は，粉や糊の貿易で財をなした旧家である。現在は和束茶を楽しめる喫茶店として使われている。 HP

第7－039号

弓箭閣（きゅうせんかく）

昭和初期に町会所として建てられた弓矢町の町家。弓矢町は八坂神社の氏子で，近年まで祇園祭に武具甲冑姿で行列に参加しており，武具甲冑や古文書などを保管している。

第8－018号

阪本商店

古川町商店街の中央部に位置し，ガラス張りの明るさと格子などの和の雰囲気を活かした店構えとなっている。虫籠窓も残る歴史のある建物。

第1－041号

NEW

得浄妙院（とくじょうみょういん）

信州善光寺別院として建立された尼門跡寺院。信州善光寺と同形の堂が建つ。門跡の住まいと宮家ゆかりの庭，雅な姿を京都の財産として残したい。 HP

第9－036号

NEW

帆布カバン 岸一澤（きいちざわ）

東大路通に面して建っていた5軒長屋のうち，唯一残った町家。知恩院さんの新門前はビルばかりで昔の姿を残す建物はわずかとなった。後世に残すべき風情を感じられる建物。 HP

第9－028号

曼陀羅園 新家

曼陀羅園と呼ばれる住宅地の奥に位置する新家は，主屋に床の間，格天井をもつ18帖の広間があり，その奥には，ウィリアム・モリスの壁紙が使用されるなど洋風文化を巧みに取り入れた洋間が残されている。

第4－032号

曼陀羅園 長屋

曼陀羅園と呼ばれる住宅地には，下地窓など数寄屋的な意匠を備えた上質な長屋が建ち並ぶ。大きな窓から採光をふんだんに取り入れた間取りは，昭和初期に注目された，「健康住宅」を意識されたと思われる。

第4－031号

曼陀羅園 丹羽家

曼陀羅園と呼ばれる住宅地は，昭和初期に丹羽氏などの有志者によって開発された，当時の住宅開発の好例である。その入口に位置する丹羽家は，隣接する長屋群と連担し，当地の景観の要になっている。

第4－030号

望月

昭和初期にお茶屋として建てられたものが平成10年（1998）に復元された。建物と庭が一体となって景観をなし，内と外を仕切る垣根の板塀は，洗練された統一感を醸し出しており町並に融合している。

第3－052号

山科区

第1－047号

奥田家 認定

山科本願寺，寺内町御本寺跡の西北隅土塁遺構を主庭園に取り込んだ萱葺き屋根の京都近郊の郷士階級の住宅。建物の主部は元禄15年（1702）に建築。 景

第2－016号

岩屋寺 認定

昔は山科神社の神宮寺であったと伝えられている。嘉永年間（1848～1854）に堅譲尼が再興。赤穂義士大石内蔵助の屋敷跡が境内にある。

第2－018号

京都大学大学院理学研究科付属 花山天文台 認定

昭和4年（1929）の創立以来，世界の天文学研究をリードしてきた。山科盆地から北西を望むと，東山に銀色のドームが2つ並び，多くの市民から親しまれている。 HP

第8－054号

京都洛東迎賓館（旧大野木家） 認定

吉田茂内閣で国務大臣を務めた大野木秀次郎の屋敷で，迎賓館としても使われた。昭和14年（1939）に建てられ，現在は結婚式場などに活用されている。

文 HP

第6－037号

栗原家 認定

建築家・本野精吾の設計による昭和4年（1929）の建築。中村鎮式コンクリートブロック造による3階建で，コンクリートを露出した先鋭的な外観表現を用いる。客間と食堂境の板戸は，施主の鶴巻鶴一のロウケツ染で飾られている。 文

第2－020号

八幡宮 認定

本殿は元禄8年(1695)建築。桁行3間，梁行2間で切妻造，檜皮葺の屋根をのせる。市内に数少ない切妻造本殿として貴重である。

文

NEW

第9－050号

日向大神宮（ひむかいだいじんぐう） 認定

新田義貞が戦勝祈願するなど，長い歴史を持つ神社。「京のお伊勢さん」とも呼ばれ，四季折々の美しい境内は市民から愛されている。

文 HP

第1－049号

室賀家（むろが） 認定

昭和13年（1938）に竣工の建物は，伝統的な町家と近代洋風建築を融合させており，当時の時代を反映している。希少で貴重な建築事例。

文 景

第1－078号

森家 認定

明治39年（1906）に単身で米国に渡り，ランプシェードに絵画を描くことで成功した美術商・森啓二郎が建てた住宅である。壁が非常に特徴的で，インテリアは同人の独自のセンスが各所に見られる建物である。 文

岩屋神社

発祥は仁徳天皇三十一年と伝わる。本社の根源は，山腹に座す陰陽の両巨巌である。社殿は治承年間（1177～1181）に焼失。弘長2年（1262）に再建され今に至る。 HP

第4－011号

大石神社

昭和10年（1935）に大石内蔵助の義挙を顕彰するため大石内蔵助公を御祭神として創建された。12月14日に行われる「義士祭」の最終目的地となっている。 HP

第2－017号

奥田家

石垣の上に板塀，白壁が印象的な住宅で，蔵と塀越しに見える庭の木々も鮮やかである。古き良き部分を残しながら改修が施され周囲の景観とも調和しながら，この地域の町並を豊かにしている。

第3－054号

片岡家

山科の農家住宅。木造2階建ての大きな民家で，瓦葺きの屋根には煙出しが見える。敷地の西側を土塀で囲み，庭を設けている。山科という地域を物語る建物である。

第8－047号

春秋山荘

明治3年（1870）に，滋賀県に建てられた欅造の農家住宅を，昭和54年（1979）に移築したもの。現在は春秋山荘として，美術品の展示をしたり，定期的に茶会を開いたりと，文化交流の拠点となっている。

第7－017号

徳林庵 地蔵堂

旧東海道に面して建ち，唐破風屋根の拝所が付く六角堂が行きかう人の目に留まる。茶所や荷馬の井戸が残り，往来の人々の休憩の場として賑わった当時の様子を今に伝えている。

第5－033号

平野家

昭和35年（1960）に建築。材木は樹齢100年程の桧を使用し，全ての柱，板にはベンガラ塗装が施され，当時の典型的な田舎の農家住宅。

第1－048号

山科別院長福寺

享保17年（1732），東本願寺の境内に建っていた長福寺を移築し創建された。本堂は天明年間（1781～88）に建てられたと伝わる。東本願寺の別院で，「東御坊さん」の名で地域に親しまれている。春はお花見，秋は紅葉でにぎわう。

第8－046号

下京区

第1－050号

遠藤家 認定

明治36年（1903）建築の厨子2階建京町家。本2階建が普及する過渡期であった明治後期の一典型をなす。上質で保存状態の良い貴重な町家。 景

第2－023号

祇園床（ぎおんどこ） 認定

町会所。祇園祭で「一里塚神饌式」が行われる長刀鉾の巡行休憩所だったが，巡行コースが変わった現在も，稚児・禿が礼拝する「抹茶拝喫」が行われる。

第6－039号

旧村井銀行七条支店 認定

村井銀行七条支店として大正3年（1914）に建築された煉瓦造２階建ての建物。ドリス式オーダーの正面が外観の特徴。七条通の大正期の景観を伝える建物である。 HP

第6－016号

きんせ旅館 認定

江戸末期の建築で元揚屋と伝わる建物。出格子，下見板の腰壁，2階の掃き出し窓が張り出す意匠を備えており，当時の地域の歴史を今に伝えている。

景 HP

第4－012号

杉本家住宅と杉本氏庭園 認定

各1間半の床と棚を装置した座敷，独立棟として西に張り出した仏間などを有する。要素・空間構成などが評価される庭園とともに，京都の中心部における大店の建築遺構として，今日まで続いている仕事や生活を思い起こさせる。 文 HP

第1－052号

田中家 認定

明治後期の建築で，客間の天井は天然屋久杉の一枚板，床は松心材の一枚板，柱は栂の四方柾・北山杉など，本願寺再建時の端材が用いられたとされる。

景

第1－053号

龍谷大学大宮キャンパス 認定

京都の歴史とともに歩んできた建物が残され，現在も校舎や図書館などとして活用されている。

文 HP

第7－041号

朱雀分木町（すじゃくぶんきちょう）の町家 認定

昭和初期に建てられ，交差点の隅切り部分に建つ。火袋，通り庭など明治・大正期の京町家と同じ特徴を持つが，外壁や内装に洋風意匠を取り入れており，昭和に入り変化する町家の姿を伝えている。

今西軒

明治30年（1897）創業のおはぎ専門店で，昭和初期の建築と推測される本2階の町家。商品を並べるショーケースなど，老舗の雰囲気を伝えている。看板を掲げた外観は賑わいを感じさせる。

第6－038号

亀屋陸奥（かめやむつ）

応永28年（1421）創業の和菓子の老舗店である。漆喰壁で木瓜形やハート形などの虫籠窓があり，堀川通沿いで，近代的な建物が立ち並ぶ中，西本願寺とともに本願寺界隈の景観を形成している。 HP

第4－034号

関西電力京都支店

昭和12年（1937）に武田五一により設計された鉄骨鉄筋コンクリート造8階建のオフィスビル。様々なモダンデザインを取り入れていた同氏の意匠に対する意識が感じ取れる建物である。

第6－014号

旧橘家（望月家）

昭和初期に建てられた総2階建ての表家造の町家。通り庭，火袋など，建築当時の意匠がよく残っている。今後も家族で維持・継承していく。

第8－048号

NEW

大藪家

通りに面した2階の外壁は銅板葺きで，室内は洋間，座敷などがある。メインストリートに面して昔の趣が残っており，珍しいと思う。

第9－014号

NEW

亀山家

京都の名工 北村傳兵衛（でんべえ）が昭和3年（1928）に建てた町家。建てられた当時の姿がほぼ残されており，貴重と思われる。

第9－037号

ギャラリーのざわ（山田家）

黒色のタイル貼りの外壁を持つ大正15年（1926）建築の町家。座敷のほかおくどさんや火袋が残されており，落語会やミニコンサートなど，市民の方が幅広く町家の文化を体感できる空間として親しまれている。

第6－015号

旧中邨（なかむら）家

昔の姿を残している大型の町家。祇園祭の物見台が残っている。しっかり手入れされていたため建物の状態がよく，大きな改修もされておらず，貴重な町家である。 景

第8－028号

京都タワー

京都の玄関口である京都駅前に立地する展望塔。京都に戻ってくると，暖かく迎えてくれるその姿にホッとする人は少なくないはずである。

HP

第2－022号

NEW

五條会館

五條楽園歌舞練場として建てられた木造3階建ての大規模な建物で，2階は大広間，3階は稽古場だった。花街として栄えた地域を象徴している。

第9－015号

小林家

出格子のついた高塀造り。2階建切妻の蔵が目立つ。奥庭には水琴窟があり，市中とは思えない静かな空間となっている。材料・職人技術が高く洗練された京町家。

第2－024号

柴田家

万寿寺通間之町の南西角に建つ町家。茶道具商を営んでいたため，設えは茶道や作陶を嗜む歴代の主人の洗練された趣味を色濃く反映しており，受け継がれている生活文化も貴重である。万寿寺通に残る数少ない大型町家である。

第8－020号

髙山家

昭和初期に建築された都市近郊の農家型住宅。外壁は真壁漆喰塗り，1階腰壁の下見板張り，2階の格子や虫籠窓を持った外観は良好な通り景観を形成している。

第6－017号

東華菜館本店

昭和元年（1926）に建てられた北京料理店。設計は米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ。四条大橋西詰に建つ洋館で，ランドマークとして親しまれている。タコ，ホタテ貝，巻貝などをモチーフとした装飾が見事で，日本最古のエレベーターも貴重である。 HP

第8－021号

中村家

本2階の比較的大規模な町家である。聚楽土で押さえられた外壁，ベンガラが塗られた木部，虫籠窓，平格子などの多彩な意匠は，間口が広い商家造りの特徴を持っている。

第6－020号

林家

主屋は元治の大火で焼失後，明治初年に建てられたものと伝わる。通りに面して出格子と門を開く高塀が延び，主屋は少し後方に置かれて，その間に前庭と玄関への通路があり，更に奥には座敷庭を挟んで土蔵が配されている。

第3－018号

興正寺

真宗興正派の本山。御影堂と阿弥陀堂は明治44年（1911）に再建された。境内には，三門，阿弥陀堂門，経蔵，鐘楼，茶室などが建つ。近世から近代にわたる真宗寺院の遺構である。

第8－027号

NEW

五條制作所

昭和初期のお茶屋建築で，外観や内装は当時の面影を残す。五條楽園の貴重な文化遺産として後世まで残すことが願いである。

第9－016号

しきさいビル

昭和6年（1931）建築の鉄骨鉄筋コンクリート陸屋根3階建て。外観は洋風で白壁でありながら庇は瓦という現在の景観条例を先取りした粋な建物。

第1－051号

髙田家

昭和4年（1929）に建築された木造2階建て切妻造，桟瓦葺の京町家。木製引違戸の横桟や丸窓の組木に赤漆が施されており，建築主のこだわりも随所にうかがえる。

第6－018号

ちもと

300年の歴史を刻む，間口の広い木造３階建ての数寄屋造の料理屋で，京都ゆかりの文化人や歌舞伎役者等に愛されてきた。鴨川の畔にあり，夕闇に沈んでいく東山を眺めながらの座敷での宴では，京都ならではの贅沢な時間が過ごせる。 HP

第3－017号

友田家

明治45年（1912）の建築の町家である。米屋を営まれてきた建物から住宅へ時代ごとに役割を変えながら代々大切に使用されている。最近，虫籠窓が復原されるなどファサードの改修が行われ，大宮通りの景観に寄与している。

第4－013号

林英社屋（はやしえい）

昭和13年（1938）に工場兼事務所として建てられたもの。道路に沿って長い塀が建ち，新町通の景観に寄与している。天井の高い大空間は，風呂敷工場であったことをしのばせる。寄宿舎棟も残されている。

第7－018号

NEW

本家三友

菊浜地域最大規模のお茶屋で，花街として賑わった往時をしのばせる。角地を活かした印象的な外観で，内部は複雑な間取りで変化に富む。

第9－017号

明王院 不動寺

平安京造営前に開基された。弘法大師作の石仏不動明王が本尊である。桓武天皇が王城鎮護のため京都の東西南北に設置した磐座の一つである南岩倉である。

第2－026号

NEW

若宮八幡宮

天喜5年（1058）に創建された八幡宮。町民の信仰が厚く，若宮八幡宮祭は若宮町の奉賛会が運営し，神輿渡御（みこしとぎょ）は植柳学区の住民から協力を得ている。

第9－039号

南 区

第2－028号

長谷川家 認定

京町家の影響を受けた切妻・瓦葺きの木造2階建て農家住宅。「寛保2年（1742）築造」の祈祷札がある。明治期作成の図面を基に修復された。

文 HP

第8－023号

六孫王神社（ろくそんのおうじんじゃ） 認定

東寺の北に位置する神社。源経基が祀られており，彼が遺した「死後も龍神となって子孫繁栄を祈る」との言葉から池は神龍池と名付けられ，手水舎には龍があしらわれている。 文 景 HP

綾戸國中神社（あやとくなかじんじゃ）

久世橋の西に位置する神社。本殿は綾戸宮と國中宮の二社が祀られている。國中宮は祇園社と同じ素戔嗚尊（すさのおのみこと）を祀り，久世駒形稚児が祇園祭の神輿を先導する。 HP

第8－022号

石原家

煙出し，虫籠窓を持つ明治期の建築と思われる農家型住宅。周辺地域の往時の景観を残す建物となっている。塀と門越しに見える庭は，木も大きくよく手入れをされている。

第6－021号

伊藤家

昭和初期に葉茶屋の商家として建てられた町家である。看板建築に改変されていた外観を，当時の趣ある佇まいに修復された。内部は，格天井や筬欄間がある本玄関など格調高い造りが随所に見られる。

第4－035号

大橋家

明治20年（1887）頃の建築と言われる重厚な主屋と門を持つ農家住宅である。古来から豪雨時に冠水し易い地であったことから，敷地北側に向け，地上げが施されている。

第5－034号

吉祥院天満宮

菅原道真公没後31年目にあたる承平4年（934）に創建された最初の天満宮。境内には吉祥天女社や道真公のへその緒を埋めた塚もある。

第1－054号

NEW

旧九条湯

昭和初期に開業した銭湯。廃業から10年，貸会場として見事に再生された。立派な風格ある外観はそのまま残り，浴場などは銭湯の姿を残している。

第9－004号

寿湯

昭和初期頃の建築と推測される銭湯建築。唐破風の入口が残り，二階に美しい欄干が残る。油井型の煙突の基部は，レンガ積みである。京都の銭湯の典型的な建築様式である。

第6－040号

鈴木組

昭和初期の木造2階建て洋風建築。外壁に石・タイルを多用し，内部は漆喰塗りで，天井・壁とも模様をかたどった趣のある仕上げとなっている。

第2－027号

田中家

通りに面して，薬医門と塀を構えた，明治初期の建築の農家住宅である。大戸を開けると広い玄関土間，玄関の間には衝立ての調度品が季節に合わせて設えられ，訪れた者を迎える。

第4－014号

田中家

明治初期の農家住宅で，現在は，畑が駐車場になっているが，通りに面して畑を持ち，奥に建物を構えるという，この村の屋敷の特徴を残した配置となっている。主屋には，「ねずみいらず」と呼ばれる穀物を保管した納屋が残っている。

第4－015号

田中家

竹田街道に建つ商家風の町家で，江戸時代末に建てられたと伝わる。玄関横に出格子があり，ぱったり床几が残る。竹田街道を彩る建物。

第6－041号

田中家門

武者窓が施され，腰板は船底の板が使用されたと云われている長屋門である。塀は，当時から3分の1の長さとなったが，今でもその偉容を伺わせている。

第5－008号

中塚家門

重厚な長屋門，白壁の美しい土蔵とその間の塀がこの一角を美しく彩っている。本宅は，新しく建て直されたものの，門，塀，土蔵や緑豊かな庭は，かつてここにあった風景を思わせる。

第5－035号

長谷川家

南北の古道に面した農家型住宅で，広い前庭や主屋には煙出しがあり，屋根瓦の総数は約1万枚と大規模なもの。内部はおくどさんや箱階段が建築当時のまま残されている。

第6－022号

林家

大家根に煙出しを備えた佇まいが古さを物語っている。虫籠窓の丈が低いのが一層の古さを感じさせ，改修された部分はあるものの，昔の趣きが残されている。

第5－036号

日の出湯

昭和3年（1928）に建築。京都の銭湯の典型的な姿を完全な形で残しており，現存している京都の戦前築の木造銭湯の中で最大規模。

HP

第1－055号

山下家

塀に囲まれ美しい庭を持つ農家住宅。塀越しに見える虫籠窓を備えた主屋や土蔵は，地域のかつての景観を伝える貴重な建物となっている。

第6－029号

右京区

第6－023号

愛宕神社 認定

全国に約900社を数える大宝年間（701～704）創建の愛宕神社の本社。江戸期の建築と伝わる本殿などの建築物の欄間には，菊や鳳凰など見事な彫刻が施され，この社の価値を高める要素となっている。 HP

第2－030号

卯瀧家（うたき） 認定

自然な美しさに魅せられる茅葺き屋根が，母屋と納屋の2棟で維持されている。集落の高台にあって，絵画的な風景を醸し出している。

第7－019号

旧邸御室 認定

昭和12年（1937）に建てられた邸宅。質の高い和風住宅である主屋に加え，双ケ岡の斜面を利用したひろびろとした庭園には，茶室や待合が建てられている。茶室の付書院のような窓からは御室の山を眺望することができる。 文

NEW

第2－032号

河原林家 認定

築後500～600年。京北山国地域の民家で北山型と言われる。千木が九つ屋根の天辺に載る大屋根である。囲炉裏やおくどさんは現役で利用されている。

NEW

第9－051号

柴田家 認定

大正時代に京都のまちなかから大工を呼び寄せて施工された美しい住宅である。

文

第1－059号

天使の里 霞中庵（かちゅうあん） 認定

近代日本画家の第一人者，竹内栖鳳（1864～1942）が自らの画室とするために設計監修し，美しい庭と贅をこらした見事な数寄屋造り「霞中庵」を完成させた。 HP

第1－057号

山﨑家（旧井上家）認定

築400年と伝わり，自然豊かな北嵯峨の地に，白壁の築地塀で囲まれた茅葺きの民家。かつて20数歩町の田畑を有した豪農の風格を変わりなく維持している。景

今西家校倉（あぜくら）

京北でも雪の多い地域に建っている穀物倉庫と思われる。校倉は近年利用されなくなっているが，次代には，昔の知恵として伝えておくことが大事である。

第2－029号

ウッドラフ家

夏涼しく，冬暖かく，湿気もとってくれるたたきで土間が作られており，おくどさんともマッチしている。自然素材で作られたものは人にも環境にも優しい。

第2－031号

木下家

1600年代後半の建築と思われる茅葺屋根の建物である。室内には「ちょんながけ」とみられる柱が残る。紅殻を使った腰戸や戸などが美しい。

第2－033号

NEW

旧鳴滝寮

書院造の和館,数寄屋意匠の離れ,スパニッシュ風外観の洋館と広い庭園を有する邸宅。昭和初期における大規模で良質な建築として重要である。

第9－044号

椹木家（さわらぎ）

椹木家の本家。明治の建築。梁や大黒柱が太く，部屋の空間がダイナミック。ベンガラ塗りの格子が印象深い。茶室，庭，蔵など雰囲気がある。

第2－034号

慈眼堂（じげんどう）

愛宕道に建つ御堂。堂内に藤原定家の念持仏と伝わる千手観音立像が安置されている。現在は中院町の町会所としても使われており，嵯峨野の歴史・文化を伝える貴重な建物である。

第7－020号

月輪寺（つきのわでら）

愛宕山の東方深い山中に位置している天応元年（781）開創と伝わる山岳寺院。標高570mに位置し，眼下に京都市街を一望できる境内には，本堂，祖師堂，権現堂，宝物殿等が配されている。

第6－024号

NEW

稲波家

築200年ほどと思われる茅葺き屋根の民家。町家などと同様に，郊外の歴史的建築物も失われていくスピードが速く感じる。頑張って残していきたい。

第9－040号

小倉山居（おぐらさんきょ）

平屋造りで，主座敷を中心に茶室を伴い，洋風応接室を付設した伝統的和風築に現代的な洋風建築を取り入れた新趣な思想で建築。

第1－058号

NEW

旧宇津郵便局

戦前に建てられた京北地域の洋風建築として貴重である。

第9－043号

小山家

江戸時代から続く薪炭商を営まれていた建物である。不運にも安政期に火災により土蔵以外が焼失したが安政3年（1856）に再建。当時の薪炭倉庫や車折神社から曳家した離れとともに薪炭商当時の状況が伺える炭俵や帳面などの品々が残されている。

第4－016号

椹木家（さわらぎ）

椹木家の分家。昭和元年（1926）以前には建つ。大きな梁が特徴的。部屋から広がる庭の眺めは自然と一体となった暮らしを感じさせる。

第2－035号

庄野家

入母屋造平入の茅葺（茅葺の上にトタン葺）の農家住宅。時代とともに改修が施されているものの,往時の景観を伝える建物である。また,欄間彫刻が意匠を凝らしており素晴らしい。

第2－036号

NEW

高乗家

明治初期に建てられた茅葺き屋根の民家。室内は改装したが茅葺きは残したい。少しでも素敵なふるさとを維持することが私どもの幸せである。

第9－041号

NEW
伝心庵

明治に建てられた私邸で庭園を持つ。仁和寺の近くに建ち，現在は旅館として活用されている。

第9－018号

中川家

座敷と納戸の間の建具が珍しい。土蔵の入口には「こて絵」がある。現役の井戸は今も大切に使われている。

第2－037号

初田家

おくどさんが立派で，冠のある透かし彫りは「猪の目」と呼ばれ目を見張る。

第2－038号

平野屋

古くより愛宕神社の門前町として賑わい，街道沿いに茶店等が建ち並ぶ嵯峨鳥居本の町並みの中にあって，400年の歴史があり中核をなす茶屋である。外観，内部とも江戸時代にタイムリスリップしたような野趣あふれる茶屋の面影を残している。 HP

第3－019号

藤野家

明治維新の際，維新勤皇隊山国隊を取りまとめた藤野斎の生家。神社神職として仕えてきた旧家。立派な長屋門が残る。

第2－040号

NEW
徳平庵

茅葺き屋根をトタンで覆うか迷っているが，京北から茅葺き屋根が無くなると，京北がさびれてしまうように思えてならない。

第9－042号

中川家

街道筋に瀟洒な長屋門を構える。門を入ると大きな石組が置かれた庭園と玄関が目に入る。母屋の縁からは，清滝川と西明寺が浮かび，都名所図会等に描かれた景色を見るようである。

第2－059号

林家

床，天井，軸組みに目の通った太い良材を使用する重厚で風格ある作りとなっている。たたきの土間，七つ竈，屋敷構えの土蔵等保存状態も良好。

第2－039号

NEW
平井家

棚田が美しい越畑に建つ茅葺き屋根の民家で，明治初期に建てられたと伝わる。標高約400メートルの高地である越畑では，近年，村おこしに力を入れている。

第9－026号

西京区

第8－024号

大原野神社 認定

京都盆地を望む丘陵地にある神社。周辺には里山が広がり神社のバッファーゾーンを形成している。綺麗に整備された竹林もあり，竹穂垣が美しい小道が整備されている。神社の境内は殿上人が遊んだ昔をしのぶことができる。 文 HP

第5－009号

かぐや姫 竹御殿 認定

昭和初期，竹職人の名工長野清助が「竹取物語」へ思いを深め，27年の歳月をかけて造った竹尽くしの建築物である。内装には，竹をモザイクタイルのように散りばめた仕上げをはじめ様々な技法による意匠が残る。

第2－066号

カトリック桂教会 認定

木工家具デザイナーのジョージ・ナカシマの設計で昭和40年（1965）に完成した。緩やかに曲線を描きながら反り上がる屋根と，それに対峙する十字架が力強く美しい。内部空間は行灯等の日本的要素に加え，アメリカ経由の日本と言うべき雰囲気を持つ。 HP

第8－029号

五社神社 認定

茅葺き屋根と楠の大木が印象的な神社。神事芸能などの風習や，明治以前の神仏習合の様子をよく残している。本殿は文化6年（1809）に建てられ，奥行きに比べ間口が広く，平面形式や構造が独特である。 文

第6－025号

浄住寺 認定

元禄10年（1697）創建の本堂とその後方に位牌堂，開山堂，寿塔が並ぶ。一連の建物は，京都市内には数少ない黄檗宗を代表するもので，特に開山堂と寿塔は黄檗宗寺院の特色をよく残している。 文

第3－021号

玉村家 認定

奥には6畳の上段の間があり，欄間・床・違棚のある書院造りの建物で，山陰街道樫原宿場町の陣屋であった豪華なたたずまいが感じられる。街道の両側に虫籠窓を持つ町家が続く町並みの中心となる，住民にとって誇りに思う建物である。 文

第3－023号

中村軒 認定

創業明治16年（1883）の老舗饅頭屋である。約30年前に住居部分を茶店にする等，時代の変化に準じて建物に手を加えられているが，むくりのついた大屋根に煙出し，虫籠窓等が残っており，店先の雰囲気から当時の往来客の様子を想像させられる。 景 HP

第5－039号

山口家（苔香居） 認定

京都西山の自然や四季と調和しながら佇む旧家である。端正な風格のある長屋門が，東海道自然歩道を散策する人，道行く人を魅了している。

文 景 HP

NEW

第9－019号

禄々荘 認定

大原野神社の社家を鉄筋コンクリート造の建物の上に移築した。茅葺き屋根が特徴である。

岩崎家

瓦塀を巡らせた規模の大きな農家住宅である。屋敷構えの全体が道路から一目で見渡せることから散策する人の目を強く惹きつける建物である。

第5－037号

太田家

約170年前に建てられた典型的な庄屋式屋敷である。木造一階の母屋を中心に，表門脇の客殿や七福神の鬼瓦を置いた米蔵・衣装蔵，屋敷外の小川から取水する池泉鑑賞式の庭園など，都市近郊の農村の典型である景観を後世に伝える。

第4－017号

郷倉（ごうくら）

平安京遷都後，樫原近郊の十二郷に年貢米等が収蔵される郷倉が建立されたのが起源。樫原は山陰街道きっての物資集積地であり，明治になり郷倉が村に下賜されると，米等の集積場として活用された。他の郷倉はなくなり，現存する貴重なものである。

第3－020号

斉藤家

軒の深い下屋は袖壁があるのみで，柱が無く作業性の良い広い空間を確保している。また，厨子二階の左官は淡い空色で，虫籠窓の格子は左右異なるデザインになっており，縁取りされた青い色が魅力的である。

第5－010号

齋藤家

切妻造平入つし2階建てで，もっこう型の虫籠窓が備わっている。各所改修されているものの立派な本玄関を持ち，地域の農家住宅の歴史や景観を感じさせる。

第5－038号

正法寺

天平勝宝年間（749～757）に創建された寺院。応仁の乱で焼失したが，元和元年（1615）に再興された。東山を借景とした「鳥獣の石庭」を持ち，本堂には鎌倉時代の千手観音像が祀られている。 HP

第6－042号

NEW

谷岡家（レストラン スポンタネ）

明治に建てられた住宅で，屋久杉などが使われている。昔の間取りのままレストラン兼住宅として使っており，このまま維持継承して後世に伝えたい。

第9－045号

中村家

桂大橋を街道沿いに西へ向かうと，新しい家が並ぶ路地の向うに白く輝く漆喰壁の土蔵が見える。裏の通りからは煙出し，虫籠窓といった伝統的な意匠が認められ，手入れされた庭や座敷の様子から，生活の表情を感じることができる。

第3－022号

永谷家

集落に向かう道すがら現れる茅葺きの屋根。庭先から広がる畑と相まって，かつての農村の姿を今に伝えている。

第5－011号

東川島自主防災部器具庫

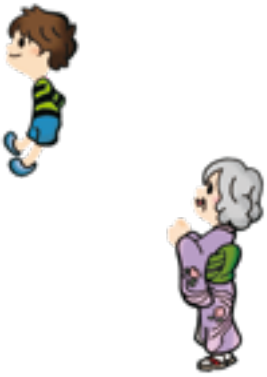
本願寺西山別院の境内に建つ妻入り桟瓦葺きの平屋の木造建築物で，地域の防災意識の歴史を感じさせる建物である。向かい合って建つ数軒の古い木造の民家と一体となって町並みを形成している。

第3－024号

龍淵寺（りゅうえんじ）

戦国時代の天正10年（1582）開山で，明智光秀公からいただいた土地で今も継承している。動乱の世に建立されて以来，今なお樫原の人々に「心のよりどころ」として存続しており，仏事があると檀家が先祖供養，平穏無事を感謝するため参拝される。

第3－025号



伏見区

第2－041号

新居家 認定

石積みの一段高い敷地に，洋館2階建てと和風2階建邸宅が建つ。庭園には枯池があり，数寄屋造の離れが迫り出して建てられている。

文

第2－042号

伊東家 認定

伏見街道沿いの間口約8間の規模を持つ町家。厨子2階にも関わらず高さを感じさせる外観，年月を経て重みを増した木質感に圧倒される。

第6－026号

岡本家 認定

元医院と伝わる建物で，壁の仕上げやハーフティンバー風の意匠は，全体的にドイツ民家風となっている。応接室や元診療室と思われる部屋が残され医院建築の面影を今に伝えている。

第1－062号

荷田春満旧宅（かだのあずままろ） 認定

国学者荷田春満（かだのあずままろ）の邸宅。住居として使われていた邸宅は平屋造で，書院や門などが残っている。

文

第1－063号

京都教育大学まなびの森ミュージアム【旧陸軍第十九旅団司令部】 認定

明治30年（1897）陸軍施設として建築。第19旅団司令部がおかれていた。近年，創建当時の姿に復元し，「まなびの森ミュージアム」として一般公開している。

HP

NEW

第8－025号

金札宮（きんさつぐう） 認定

伏見区最古とも伝わる神社。天太玉命（あめのふとだまのみこと），天照大神（あまてらすおおみかみ），倉稲魂神（うがのみたまのみこと）が祀られている。現在の社殿は嘉永元年（1848）に建てられた。

景 HP

第1－064号

小西家 認定

木造中2階建ての主屋，離れ，道具蔵，米蔵からなる。座敷の趣きのある意匠材料や，土間と中2階の見応えのある梁組など質の高い建築物。

景

第1－068号

宝湯 認定

昭和6年（1931）に竣工。木造モルタル造で，洋風建築という特異性を持ち，外観，脱衣場がほぼ建築時の姿を保っている貴重な建築物。

第5－014号

長尾天満宮 認定

平安時代に創建された醍醐寺の北東山麓にある神社である。社殿は，文政4年（1821）に再建されたと伝わっている。深い緑の木々に囲まれた，まっすぐに延びる参道が印象的な美しい神社である。

NEW

第1－071号

長谷川家 認定

築約130年の農家住宅である。約400坪の敷地には，主屋，表蔵，たつみ蔵などが建つ。主屋の屋根が特徴的で重厚な重ね妻となっている。

第3－028号

増田徳兵衛商店 認定

延宝3年（1675）創業で，伏見の酒造会社の中でも古い歴史があり，建物も趣がある。鳥羽の作り道に面し，かつては京から西国へ向かう公家の中宿も務めたと伝わる。酒蔵も古いたたずまいが少なくなってきている中，来る人を引き付ける魅力や雰囲気がある。 景 HP

NEW

第9－025号

桃山温泉月見館 認定

昭和の初めに建てられた木造3階建ての旅館。南面に大きな窓を設けており，観月の名所として名高い宇治川を眺めることができる。

文

第1－067号

聖母女学院本館 認定

明治41年（1908）に旧帝国陸軍16師団本部として建築。内外部とも建築当初のままに残っており，外観や内部デザインなどは見る者を魅了する。

文 HP

NEW

第8－049号

津田家 認定

伏見南浜に建つ町家。津田家は両替商と炭屋を営み，伏見界わいの商いと生活を支えた。奥行きの深いトオリニワや広大な庭から当時の繁栄ぶりがうかがえる。 景

第1－070号

日本聖公会 桃山基督（キリスト）教会 認定

昭和11年（1936）に建てられ，隣接する御香宮神社との調和が見事。平日は幼稚園児の歓声，日曜日には礼拝堂で聖歌の声が聞こえてくる。

HP

第8－055号

藤田家 認定

旧街道沿いにある旧家で，明治初期に建てられた。港の近くであるため，かつては旧街道沿いには，旅籠，飲み屋，ばくち場が点在していた。主屋は街道から後退した位置に建ち，玄関前で米を牛車に積み替え，京に運んだ。 文

第4－018号

松井家 認定

洋風と和風の意匠を持った2階建ての建物で，スクラッチタイル調の外壁や木製建具が当時のまま残されている。玄関入口にかかる木札には，電話番号と思われる漢数字が記されており，当時の面影を残している。 文

第3－030号

山田家 認定

醍醐寺南門の向かいにあって，土塀に薬医門を構え，主屋の玄関に入母屋の式台玄関を設ける。庭も比較的良好な状態が保たれておられ，醍醐寺の周辺に点在する，地域の歴史を感じることの出来る重要な建物のひとつである。 景

第1－072号

山本家 認定

鳥羽伏見の戦いで焼亡した後，明治29年（1896）に再建。商売の便のため表屋に接続して店蔵を構え，蔵前から奥を母屋とする変わった設計になっている。

景

飯田家土塀と門

飯田家は，醍醐寺の寺侍を勤めた家柄である。主屋は数年前に建て替えられたものの，江戸期のものと思われる土塀と門は現存し，醍醐寺周辺の景観を形成している。

第4－036号

NEW

生田家

昭和11年（1936）に，住宅 兼 寮として建てられ，現在は，自宅 兼 宿泊施設として使用している。川沿いの良好な景観を創出している。

第9－046号

浮田家

明治中期に建築された建屋及び納屋から構成される。建屋が面する通りは，明治元年（1868）の付け替え工事まで木津川の堤防であり，建屋背面の高基礎がそのことを示す。建屋の表と裏の表情の違いは興味深く，水運で栄えた美豆の繁栄を偲ばせる。

第3－026号

太田家

旧島本銀行と伝わるこの建物は，玄関に半円を描く石の階段や銅板に覆われた柱，さながら蔵のような窓枠が備わるなど当時の銀行の面影を伝えている。

第5－012号

尾﨑家

大津街道沿いに建つ築90年，木造つし二階建て，切妻平入の農家住宅。田の字型の間取りと大きな梁が特徴的で，虫籠窓，煙出し屋根などが残され，当時の名残をとどめる地域の貴重な財産となっている。

第5－040号

木田醤油 浜納屋

以前は木津川に面しており，船荷の積み降ろしを行なっていた納屋。川へ荷降ろしするための石段も残る。この地域の船運で賑わっていた頃の往時を彷彿させる。

第2－043号

米市本家

古くは酒造りを営んでおり，その後米穀商の店舗として使った建物。現在は営業していないが，当時の看板などもそのまま掛けてある。

第1－065号

井上治療院

昭和初期に建てられた店舗兼用住宅。外観は洋風建築で，三連のアーチが特徴的な洗練された意匠は，薬局の格式の高さを窺わせる。

第1－060号

NEW

魚三楼

江戸時代に創業した京料理の老舗。出格子に残る銃弾の痕は鳥羽伏見の戦いのものと伝わる。伏見界隈の歴史を伝える貴重な建物である。

景 HP

第9－020号

大岩神社

岩を御神体とする神社。数多くの塚や石灯籠が立ち並ぶ。大鳥居と小鳥居は，この神社と縁が深い堂本印象による寄進で，自らデザインした人物，動物，文様などが施された独特の意匠である。

HP

第7－021号

奥川家

土塀に囲まれて，土蔵や庭があり，立派な門がある豪農ともいうべき農家造りの建物。現在は，土蔵と門が残っており，道行く人の心を和ませてくれる。

第1－061号

カトリック伏見教会

教会の敷地内には教会堂，司祭館，便所棟があり，教会堂と司祭館の間にある庭園は瀟洒に整備され，全体のコンパクトな構成は見る者に心の安らぎをもたらす。

HP

第1－079号

NEW

旧浜田家

明治期に建てられたと伝わる住宅。地下は当時としては珍しい鉄筋コンクリート造で，濠川（ごうかわ）に浮かぶ舟から 地下室へ直接，出入りできる。

第9－021号

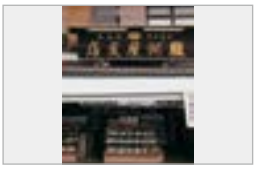
しも村

門前の旧街道に面して建つ，昭和初期建築の手打ち蕎麦屋である。建物の2階には，建具に沿って欄干が回り，当時の様子を現在に伝える。

第5－013号

駿河屋伏見稲荷支店

創業約80年の和菓子店である。昭和6年（1931）ごろの建築で，建物の外観や店の様子も建築当初から現在までほと　んど変わらず，現在も薪を使って銅鍋で餡子や羊羹を炊くなど昔ながらの製法が守られている。



第4－019号

清和荘

昭和32年（1957）創業の三代続く料亭旅館で，昭和初期の風情が継承されている数寄屋造の建物と日本庭園が融合された広い敷地を持つ。墨染通りに面する大門をくぐると庭木のお出迎え，通りの騒音から隔離された別世界が広がる。HP

第3－027号

にしむら亭

伏見稲荷大社山茶屋。二階建ての寄棟造りの建物と，西側にある木造平屋がある。特に平屋からの西方向への眺望は素晴らしい。

第1－069号

布施家

外観は段蔵が特徴で，台所には大きな「おくどさん」が残る。昔ながらの家や道具を大切に残して住んでおり，家だけでなく暮らしぶりも京都の財産として多くの人に知ってもらいたい。

第2－064号

南家

明治に建築の伝統的な礎石立ちの住宅で，玄関の構えや軒が素敵である。門をくぐると目に入る植え込みは迫力がある。居間から縁側越しに見下ろす庭も，視線の高さと木々の配置が巧みに操作されている。

第2－061号

妙教寺

淀古城跡地に建てられた。本堂には鳥羽・伏見の戦いの際に砲弾が貫通した跡とその実砲弾が残る。四季折々の花も植えられている。

第2－045号

山田家

主屋は,木造つし2階建て桟瓦葺きに煙り出しを突き出している明治後期頃の建築。農家らしく広い土間を持ち，部屋は2列に6室あるなど,日本に多く見られる平面形式の一つと言われている。

第5－041号

瑞光寺

境内入口にある萱葺きの山門を潜ると本堂の萱葺き屋根が目に入る。その屋根のシルエットは，この寺を再興した元政上人の衣姿を彷彿させる。

HP

第1－066号

西之大坊 大雲寺

天正18年（1590）深草山寶塔寺の仮本堂として建立。近年，中原正治氏により庭園を改造。茶室から見る庭園は幽玄の世界を満喫できる。

第2－044号

平宗（ひらそう）酒店

創業明治34年（1901）の酒店である。建物は大正15年（1926）の建築で，出入口の木引戸や虫籠窓が残る外観をはじめ当時のままの状態を維持しており，京都伏見の酒の蔵元が多く軒を連ねる伏見南浜界隈の景観を形成している。HP

第4－020号

前田家納屋

昔は水害が多かったため，船が家に備え付けられている。現代では失われた生活の痕跡や知恵が残っており，羽束師地域の歴史，文化的な生活や地域性を象徴している。

第2－060号

南里公民館

昭和25年（1950），大工や左官などが多く住む職人町に建築された木造の公民館である。切妻造木造平屋建てに入母屋の玄関が突出している。町内で今でも大切に使われている。

第5－015号

NEW

桃山いろは舘

大正2年（1913）創業の旅館。多くの参拝客や修学旅行生を受け入れた点で，京都における近代遺産として歴史的・文化的価値があると考える。

第9－047号

ランプ小屋

明治13年（1880）から大正10年（1921）まで走っていた旧東海道本線のランプ小屋として使用。石油など危険物を扱う建物であったため，堅牢な煉瓦で造られている。HP

第1－077号

募集中

身近な“京都を彩る建物や庭園”の推薦をお待ちしています

この制度は京都の歴史・文化の象徴として残したい建物や庭園を募集,リスト化し,地域の誇りとして守っていこうというものです。

募集内容

京都の財産として残したいと思う建物や庭園

※自薦他薦は問いません。
※所有者への同意確認は,審査後,京都市が行います。

対象

世代を超えて継承され,京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園

※おおむね50年以上経過したもの　※所在地が京都市内のもの
※国・地方公共団体が所有のものは除きます。

応募資格・条件

京都市内に在住,通勤又は通学されている20歳以上の方

応募方法

所定の応募用紙に必要事項を御記入のうえ,郵便,電子メール又は持参にて御提出ください。
（FAXでの応募は受け付けておりません。）

※応募用紙は市役所等で配布しています。
※ホームページ（http://kyoto-irodoru.com/）からもダウンロードできます。

詳しくは応募用紙を御覧ください

応募からの流れ

応募
市民の皆様からの推薦

→ 審査および選定
審査会で審査し,所有者の同意を得て選定

→ 選定された建物や庭園の発表
公表の同意をいただき京都市ホームページなどで公表します。

→ 認定に向けた調査・審査 → 認定

\ スマートフォンからも簡単に応募いただけます! /

写真もスマートフォンで撮影してアップロードできます。是非御利用ください。

http://www.kyoto-irodoru.com/mobile/clipmail/oubo.html

問合せ先

〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394　Y・J・Kビル2階
京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課
075-366-1498　http://kyoto-irodoru.com/　メールアドレス：bunka-hogo@city.kyoto.lg.jp

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!

京都を彩る建物や庭園リスト【第8版】 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課 令和2年3月発行 京都市印刷物第313244号